

平成24年度（2012年度）
大学院学生募集要項

博士前期課程・修士課程（P3～47）	
文学研究科	
日本語日本文学専攻	博士前期課程
英語英米文学専攻	修士課程
社会文化学専攻	修士課程
人間生活学研究科	
人間発達学専攻	修士課程
人間発達学コース	
臨床心理学コース	
食品栄養学専攻	修士課程
人間生活学専攻	修士課程
博士後期課程（P51～71）	
文学研究科	
日本語日本文学専攻	博士後期課程
人間生活学研究科	
人間複合科学専攻	博士後期課程

ノートルダム清心女子大学大学院

博士前期課程・修士課程

目 次

学生募集要項	3
募集人員	3
一般選抜	3
出願資格	3
出願書類, 試験科目	4
社会人特別選抜	6
出願資格, 出願書類	6
試験科目	7
外国人留学生選抜	8
各選抜共通事項	8
研究テーマ・内容等に関する事前相談, 出願期間, 出願方法	8
選考方法, 試験日, 試験場, 試験当日に関する注意事項	9
判定通知, 入学手続	10
学費等納入金	11
取得免許・資格, 長期履修制度	12
奨学金制度等	13
大学院の紹介	14
文学研究科の概要と特色	14
日本語日本文学専攻博士前期課程	15
英語英米文学専攻	18
社会文化学専攻	22
人間生活学研究科の概要と特色	27
人間発達学専攻人間発達学コース	28
人間発達学専攻臨床心理学コース	35
食品栄養学専攻	40
人間生活学専攻	44

学生募集要項

募集人員

研究科	専攻・コース	課程	募集人員	
			秋季	春季
文学研究科	日本語日本文学専攻	博士前期課程	6	若干名
	英語英米文学専攻	修士課程	4	若干名
	社会文化学専攻	修士課程	4	若干名
人間生活学研究科	人間発達学専攻 人間発達学コース 臨床心理学コース	修士課程	11	若干名
	食品栄養学専攻	修士課程	3	若干名
	人間生活学専攻	修士課程	6	若干名

一般選抜

1. 出願資格

次の資格を備えた女子

- (1) 大学を卒業した者又は本大学院入学の前までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は本大学院入学の前までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者又は本大学院入学の前までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は本大学院入学の前までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は本大学院入学の前までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は本大学院入学の前までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (8) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- (9) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で平成24年4月1日において22歳に達したものの
- (10) 日本国政府国費外国人留学生として推薦を受けた者

《注意》

「一般選抜」出願資格の(9)については、次のとおりです。

☆ 短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生やその他の教育施設の修了者等大学卒業資格を有していない者であっても、本大学院における個人の能力の個別審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で22歳に達したものの

上記出願資格の(8)(9)のいずれかによって出願しようとする者は、秋季試験は、平成23年(2011年)7月25日(月)、春季試験は、平成23年(2011年)12月27日(火)までに、出願資格認定のための審査を受けなければなりません。

該当者は、入試広報部へ問い合わせてください。

2. 出願書類

1.	入学志願票	本大学院所定の用紙 上半身、正面、背景なし、3か月以内撮影、縦4cm×横3cmの写真（同じもの。カラー、白黒いずれでもよい）を志願票と写真票に貼付してください。
2.	卒業証明書又は卒業見込証明書	出願資格にかかわるもので、厳封されたもの
3.	成績証明書	出身大学長又は学部長が作成し、厳封したもの
4.	卒業論文・卒業演奏・卒業制作等の要旨	本大学院所定の様式に従って作成すること
5.	研究計画書	本大学院所定の様式に従い、志望の動機、目的及び入学後の研究計画を記入したもの
6.	受験科目選定申告書	本大学院所定の用紙（該当する志願者のみ）
7.	長期履修申請書	本大学院所定の用紙（該当する志願者のみ）
8.	長期履修計画書	本大学院所定の用紙（該当する志願者のみ）

3. 試験科目

(1) 文学研究科

試 験	専 攻	課 程	試 験 科 目 間 隔	科 目 名
筆記試験	日本語日本文学専攻	博士前期課程	外国語 9:00～10:00	日本語、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の5か国語から1か国語を出願時に選択（自国語は選択できません。） ※辞書持ち込み可
			専門科目 10:30～12:00	問題A 日本文学、日本語学の2領域とも必答 問題B 古代中世文学、近世近代文学、日本語学の3研究分野から、志望する1分野の問題を出願時に選択
	英語英米文学専攻	修士課程	外国語 9:00～10:00	英語 ※辞書持ち込み不可
			専門科目 10:30～12:00	英米文学、英語学 ※辞書持ち込み不可
	社会文化学専攻	修士課程	外国語 9:00～10:00	英語、ドイツ語、フランス語、中国語の4か国語から1か国語を出願時に選択 ※辞書持ち込み可
			専門科目 10:30～12:00	問題A 社会学、日本社会史、アジア社会史、ヨーロッパ社会史、日本民俗学、考古学のうちから2科目を選択 問題B 社会学、日本社会史、アジア社会史、ヨーロッパ社会史、日本民俗学、考古学のうちから、志望する分野の1科目を出願時に選択 ※専門科目（問題B）の選択にあつては、次のことに注意すること ○現代社会論分野志望の志願者は、「社会学」を選択すること ○社会史分野志望の志願者は、「日本社会史」～「考古学」の中から選択すること
面接試験	13:00～			

《注意》 辞書持ち込み可の科目であっても、電子辞書の持ち込みは不可とします。

(2) 人間生活学研究科

試 験	専攻・コース	課 程	試 験 科 目 時 間	科 目 名
筆記試験	人間発達学専攻 人間発達学コース	修士課程	外国語 9:00～10:00	英語 ※辞書持ち込み可
			専門科目 10:30～12:00	発達基礎論, 発達支援論の2研究分野から, 志望する1分野の問題を出願時に選択
	人間発達学専攻 臨床心理学コース	修士課程	外国語 9:00～10:00	英語 ※辞書持ち込み可
			専門科目 10:30～12:00	問題A 臨床心理学(必答) 問題B 発達心理学, 心理学研究法, 障害児心理学のうち1科目を選択
	食品栄養学専攻	修士課程	外国語 9:00～10:00	英語 ※辞書持ち込み可
			専門科目 10:30～12:00	生理学, 公衆衛生学, 臨床栄養学, 栄養学, 食品学, 食文化論, 栄養教育論, 食品衛生学のうち2科目を選択
	人間生活学専攻	修士課程	外国語 9:00～10:00	英語 ※辞書持ち込み可
			専門科目 10:30～12:00	人間社会論, 生活文化論, 生活経営論, 生活環境論の4研究分野から, 志望する1分野の問題を出願時に選択
面接試験	13:00～			

《注意》辞書持ち込み可の科目であっても, 電子辞書の持ち込みは不可とします。

社会人特別選抜

1. 出願資格

次の資格を備えた女子

「一般選抜」における出願資格の(1)～(7)又は(9)のいずれかに該当し、かつ、入学時に25歳以上である者

2. 出願書類

1.	入学志願票	本大学院所定の用紙 上半身、正面、背景なし、3か月以内撮影、縦4cm×横3cmの写真（同じもの。カラー、白黒いずれでもよい）を志願票と写真票に貼付してください。
2.	卒業証明書	出願資格にかかわるもので、厳封されたもの
3.	成績証明書	出身大学長又は学部長が作成し、厳封したもの
4.	卒業論文・卒業演奏・卒業制作等の要旨	本大学院所定の様式に従って作成すること
5.	研究計画書	本大学院所定の様式に従い、志願の動機、目的及び入学後の研究計画を記入したもの
6.	受験科目選定申告書	本大学院所定の用紙（該当する志願者のみ）
7.	長期履修申請書	本大学院所定の用紙（該当する志願者のみ）
8.	長期履修計画書	本大学院所定の用紙（該当する志願者のみ）

《備考》

- ・ 現職教員にあつては、筆記試験のうち専門科目試験の一部又は全部を研究業績（公刊物）の審査によって代替することができます。

なお、食品栄養学専攻を受験する者のうち、現職教員、栄養士又は栄養士関連業務に就いている者にあつては、筆記試験（小論文、専門科目）の一部又は全部を研究業績（公刊物）の審査によって代替することができます。

審査を希望する者は、秋季試験は、平成23年（2011年）7月25日（月）、春季試験は、平成23年（2011年）12月27日（火）までに入試広報部へ問い合わせのうえ、審査を受けてください。

- ・ 現職教員等で、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例の適用を受けようとする者は、入試広報部へ問い合わせてください。

※ 大学院設置基準第14条では、教育方法の特例として①「夜間」、②「特定の時間」、③「特定の時期」に教育を行うことができると規定しています。本大学院では、①「夜間」及び③「特定の時期」には教育を行っていませんが、②「特定の時間」について適用する場合があります。この「特定の時間」の適用の内容は、次のとおりとなっています。

☆ その内容は、学生が課程修了の要件として必要な科目を履修する際に、教員が授業又は研究指導の時間を学生の都合に合わせて調整するものです。

☆ なお、人間発達学専攻臨床心理学コース及び食品栄養学専攻の1年次は、フルタイムの修学とし、有職者は1年間の研修命令又は休職等の措置を講ずるよう義務付けています。ただし、長期履修制度を利用する場合にはこれは適用されません。

☆ 人間発達学専攻臨床心理学コースでは、長期履修制度を利用する場合でも、大学院設置基準第14条の教育方法の特例としての「特定の時間」は適用していません。

3. 試験科目

(1) 文学研究科

試験	専攻	課程	試験科目 時間	科目名
筆記試験	日本語日本文学専攻	博士前期課程	小論文 9:00～10:00	問題A 日本文学, 日本語学の2領域とも必答 問題B 古代中世文学, 近世近代文学, 日本語学の3研究分野から, 志望する1分野の問題を出願時に選択
			専門科目 10:30～12:00	
	英語英米文学専攻	修士課程	小論文 9:00～10:00	英米文学, 英語学 ※辞書持ち込み不可
			専門科目 10:30～12:00	
	社会文化学専攻	修士課程	小論文 9:00～10:00	問題A 社会学, 日本社会史, アジア社会史, ヨーロッパ社会史, 日本民俗学, 考古学のうちから2科目を選択 問題B 社会学, 日本社会史, アジア社会史, ヨーロッパ社会史, 日本民俗学, 考古学のうちから, 志望する分野の1科目を出願時に選択 ※専門科目(問題B)の選択にあつては, 次のことに注意すること ○現代社会論分野志望の志願者は, 「社会学」を選択すること ○社会史分野志望の志願者は, 「日本社会史」～「考古学」の中から選択すること
			専門科目 10:30～12:00	
面接試験	13:00～			

(2) 人間生活学研究科

試験	専攻・コース	課程	試験科目 時間	科目名
筆記試験	人間発達学専攻 人間発達学コース	修士課程	小論文 9:00～10:00	発達基礎論, 発達支援論の2研究分野から, 志望する1分野の問題を出願時に選択
			専門科目 10:30～12:00	
	人間発達学専攻 臨床心理学コース	修士課程	小論文 9:00～10:00	問題A 臨床心理学(必答) 問題B 発達心理学, 心理学研究法, 障害児心理学のうち1科目を選択
			専門科目 10:30～12:00	
	食品栄養学専攻	修士課程	小論文 9:00～10:00	生理学, 公衆衛生学, 臨床栄養学, 栄養学, 食品学, 食文化論, 栄養教育論, 食品衛生学のうち2科目を選択
			専門科目 10:30～12:00	
	人間生活学専攻	修士課程	小論文 9:00～10:00	人間社会論, 生活文化論, 生活経営論, 生活環境論の4研究分野から, 志望する1分野の問題を出願時に選択
			専門科目 10:30～12:00	
面接試験	13:00～			

外国人留学生選抜

外国人留学生については、特別入試も行っています（秋季のみ）。
希望者は、本学入試広報部へ照会してください。

各選抜共通事項

1. 研究テーマ・内容等に関する事前相談

博士前期課程・修士課程志願者は、研究テーマ・内容等について、出願前に本学大学院担当教員に事前相談することができます。

事前相談を希望する場合は、入試広報部宛に、E-mail（メールアドレスは、裏表紙参照）でお問い合わせください。

2. 出願期間

〈秋季〉平成23年（2011年）8月25日（木）～9月1日（木）消印有効

〈春季〉平成24年（2012年）1月30日（月）～2月6日（月）消印有効

[注] 海外からの出願は、期間内必着とします。

3. 出願方法

(1) 入学検定料 30,000円

- ① 志願票一連のつづりは、切り離さないで必要事項を記入し銀行へ持参してください。
- ② 入学検定料は、最寄りの銀行窓口（ゆうちょ銀行は不可）から振り込み納入してください。
ATMやインターネットバンキングなどで振り込みをされた場合は、提出書類等に取扱店収納印がないため、書類を受理することができません。
- ③ **振り込んだ後、A・E票に取扱店収納印があることを確認してください。**
- ④ E票は領収書なので大切に保管してください。

(2) 前記書類を取り揃え、ノートルダム清心女子大学入試広報部宛に郵送（簡易書留速達）又は持参してください。

(3) 出願書類を持参する場合の受付時間は、8:30～16:30です。（土曜、日曜、祝日、本学休業日を除く。
春季は土曜日も12:30まで受け付けています。）

《受付》ノートルダム清心女子大学 入試広報部

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

TEL 086-255-5585（直通）

(4) **出願後の志望研究科・専攻（コース）、課程及び選択受験科目の変更は一切認めません。**

(5) 受験票は、出願締切後本人宛に発送します。

（秋季は9月7日頃、春季は2月13日頃一括して投函する予定です。）

※受験票には、志望研究科・専攻（コース）、課程、受験番号、氏名（カナ）等が記載されています。
記載内容や住所表示が異なる場合は、直ちに入試広報部まで問い合わせてください。

○ **いったん提出された出願書類及び入学検定料は、いかなる場合も返却しません。**

(6) 身体に障害を有する入学志願者との事前相談

身体に障害（学校教育法施行令第22条の3に定める身体障害の程度）がある者には、受験上の特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願開始日の1週間前（秋季試験の場合は、平成23年（2011年）8月12日（金））までに、本学入試広報部にお申し出ください。

なお、相談の内容によっては、対応に時間を要することもありますので、できる限り早い時期に相談してください。

(7) 出願後の受験上の特別な措置

出願後に不慮の事故等（交通事故、発病等）のため受験上の特別な措置を希望する者は、速やかに本学入試広報部に問い合わせてください。

なお、申請が試験直前であったり、申請内容への対応が直ちにできないような場合には、希望する措置が行えないこともありますので、御了承ください。

4. 選考方法

- (1) 書類審査
- (2) 筆記試験（各専攻別）
- (3) 面接試験

5. 試験日

〈秋季〉平成23年（2011年）9月21日（水）

〈春季〉平成24年（2012年）2月23日（木）

6. 試験場

ノートルダム清心女子大学（裏表紙 大学案内図参照）

7. 試験当日に関する注意事項

- (1) 自家用車の乗り入れを禁止します。
- (2) 正門から建物に入ってください。
- (3) 受付（正面玄関、8:30～8:40）で出席確認後、8:45までには試験室へ入室してください。
- (4) 注意事項

①試験時間中、机の上に置けるものは、下記のものだけです。

受験票、筆記用具（鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り）、時計（時刻のみを表示するもの）、辞書（持ち込みを認められている試験のみ）

携帯電話等の通信機器は、試験室に入る前に電源を切り、身につけないで、カバンなどにしまっておいてください。

その他の所持品は、カバンなどにまとめて座席の下に置いてください。

②試験時間中に配付した問題冊子等は、全て回収しますので持ち帰ることはできません。

③遅刻した場合、試験開始後20分まで受験を認めますので、誘導係員に申し出てください。

④試験時間中は監督者・面接官の指示に従ってください。従わない場合は不正行為となる場合があります。

- ⑤当日受験票を忘れた者は、誘導係員に申し出て指示を受けてください。
- ⑥試験当日は、各自昼食を持参してください。(大学では販売していません。)
- ⑦引率者の方は、試験当日、引率者控室以外には立ち入らないでください。

8. 判定通知

〈秋季〉平成23年(2011年)9月26日(月)

〈春季〉平成24年(2012年)2月27日(月)

判定結果は、受験者本人宛に速達で郵送します。(合格者には、入学手続き書類も同封します。)

- 〈秋季〉9月28日(水)までに判定通知が届かない場合は、9月29日(木)の8:30～16:30の間に入試広報部(TEL086-255-5585)にお問い合わせください。
〈春季〉2月29日(水)までに判定通知が届かない場合は、3月1日(木)の8:30～16:30の間に入試広報部(TEL086-255-5585)にお問い合わせください。
- 判定通知未着を除く判定結果についての電話での問い合わせ、電報の依頼には一切応じていません。本学発信以外の応答には責任を負いません。

9. 入学手続

- (1) 合格者は、下記手続期間内に必要書類及び入学手続き金を取り揃え手続を済ませてください。

それぞれの期日までに手続を終了しない場合は、入学の意思がないものとみなします。

- (2) 入学手続き金

区分	入学手続き金項目	金額	備考
第1次手続	入学金	300,000円	本学の卒業生は、150,000円
第2次手続	授業料(第1期分) 施設・設備費(1年次分)	280,000円 150,000円	

- (3) 入学手続き書類

区分	手続き書類	備考
第1次手続		提出書類はありません
第2次手続 又は一括手続	誓約書 所属長の同意書	銀行振込用紙一連つづりの一部 学校、会社等に在職中で入学後も在職する者のみ提出(書式自由)

- (4) 入学手続期間

〈秋季〉

区分	手続期間
第1次手続	平成23年(2011年)9月27日(火)～平成23年(2011年)10月7日(金)
第2次手続	平成23年(2011年)9月27日(火)～平成24年(2012年)3月19日(月) 消印有効

[注] 海外からの入学手続は、期間内必着とします。

〈春季〉

区分	手続期間
一括手続	平成24年(2012年)2月28日(火)～平成24年(2012年)3月19日(月) 消印有効

[注] 海外からの入学手続は、期間内必着とします。

- 一括手続の入学手続き金は、前記第1次手続と第2次手続の合計です。
- 銀行振込用紙は、一連となっています。切り離さないで必要事項を記入して、最寄りの銀行窓口

(ゆうちょ銀行は不可) から振り込み納入してください。ATMやインターネットバンキングなどで振り込みをされた場合は、提出書類等に取扱店収納印がないため、書類を受理することができません。

- 第2次手続又は一括手続では、振り込んだ後、提出書類(誓約書)の取扱店収納印を確かめて、本学入試広報部へ郵送又は持参してください。
- 書類を郵送する場合は、速達としてください。
- 書類を持参する場合の受付時間は、8:30～16:30です。(日曜、祝日、本学休業日を除く。土曜日は12:30まで)

※ 手続期間内の日曜・祝日を除く本学休業日は、下記のとおりです。

12月8日(木)、12月29日(木)～1月4日(水)

- 前記第2次手続または一括手続が完了した場合は、入学許可書を本人宛に郵送します。
 - 第1次手続のみ終了した時点では、本学から送付する書類はありません。領収書は大切に保管してください。
 - 所属長の同意書は、第2次手続または一括手続締切日から1週間以内に、提出してください。
- (5) 入学辞退者への納付金返還に係る対応について

平成24年度(2012年度)の大学院入学試験(一般選抜・社会人特別選抜)による第2次手続もしくは一括手続完了後の入学辞退者には、下記のように対応します。

①納入された学費等は返還しません。ただし、次の期間に本学が定める手続により入学を辞退した場合に限り、入学金を除く学費等(授業料、施設・設備費)は、それに相当する額を返還します。

1) 郵送の場合は、簡易書留速達郵便で平成24年(2012年)3月31日(土)の消印有効。

2) 本学入試広報部に持参の場合は、平成24年(2012年)3月31日(土)12:30まで。

②平成24年(2012年)4月1日(日)以降に辞退した場合には、学費等納入金は返還しません。

③納付金返還を希望する者は、「入学辞退届・学費等返還金振込先金融機関届」に必要事項を記入し、第2次手続もしくは一括手続完了者に送付される「入学許可書」を添え、入試広報部へ提出してください。

- 返還手続に必要な入学手続要項及び手続書類(「入学辞退届・学費等返還金振込先金融機関届」等)は、合格者に判定通知とともに送付します。
- 必要な手続を完了した場合は、4月末日までに所定の納付金を返還します。
- 返還の対象となるのは、第2次手続もしくは一括手続完了者のみです。第1次手続のみ完了している場合は、返還の対象とはなりません。

10. 学費等納入金

(1) 学費等

下記金額を4月と10月に分納します。

納 入 金	文 学 研 究 科	人 間 生 活 学 研 究 科
授 業 料 (年 額)	560,000 円	560,000 円
施 設 ・ 設 備 費 (年 額)	150,000 円	150,000 円
教 育 充 実 費 (年 額)	74,000 円	44,000 円
実 験 実 習 演 習 費 (年 額)	31,000 円	64,000 円
衛 生 冷 暖 房 費 (年 額)	50,000 円	50,000 円
合 計	865,000 円	868,000 円

(2) 学生教育研究災害傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料

教育研究活動中及び通学途上に被った不慮の災害に対する救済措置として、また、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る損害賠償を補償する措置として、学生教育研究災害傷害保険と学研災付帯賠償責任保険に加入することになっています。保険料は、入学時（4月）に徴収します。

保険種別	研究科	文学研究科・ 人間生活学研究科共通
学生教育研究災害傷害保険		1,400円
学研災付帯賠償責任保険		680円
合計		2,080円

※ 保険料は2年間分で、平成23年度（2011年度）保険料です。

11. 取得免許・資格

本大学院（博士前期課程・修士課程）において取得できる教育職員免許状・資格の種類は、次のとおりです。

研究科	専攻・コース	免許状・資格の種類	免許教科
文学研究科	日本語日本文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国語
	英語英米文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	外国語（英語） 外国語（英語）
	社会文化学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	社会 地理歴史・公民
人間生活学研究科	人間発達学専攻 人間発達学コース	小学校教諭専修免許状 幼稚園教諭専修免許状 学校心理士受験資格 又は学校心理士補資格	
	人間発達学専攻 臨床心理学コース	臨床心理士受験資格	
	食品栄養学専攻	栄養教諭専修免許状	
	人間生活学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	家庭 家庭

12. 長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有している等の事情により、定められた修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、2年間の標準修業年限を超えて、3年間ないし4年間で計画的に教育課程の修学を認めるものです。適用を認められた場合、納入する学費等の総額は2年間分ではなく、2年間分の学費等を、認められた履修年数で除した額を毎年納入することになります。

(1) 申請資格

長期履修の申請ができるのは、職業を有している等の事情により、定められた修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限ります。

※職業を有している等とは、有職者（正規職員以外も含み、主としてその収入で生計を立てている者）及び、出産、育児、介護、その他のやむを得ない事情により、フルタイム学生としての修学が困難な事情にあることをいいます。

(2) 申請手続時期および期間

入学前（出願期間）又は入学後1年未満とします。入学後の申請手続期間はその年度の2月上旬とします。

(3) 認める期間

長期履修を認める期間は3年ないし4年とします。(すでに在学した期間を含めて、全体で4年を超えることはできません。)

(4) 授業の履修計画

授業の履修及び単位の修得については、専攻主任ないし研究指導担当予定教員の指導を受け、計画的な授業履修及び単位修得となるよう努めてください。

(5) 申請から審査結果通知まで

- ・志願票の長期履修希望欄に記入の上、長期履修申請書と長期履修計画書を、その他の出願書類とともに提出してください。
- ・試験日当日の面接試問終了後等に、修学の条件等について確認を受けてください。
- ・合格した場合、提出書類にもとづいて審査を行います。
- ・審査結果は判定結果とともに通知します。

(6) 入学手続

長期履修制度の適用を認められた者は、長期履修者用の銀行振込用紙を用い、入学手続(P. 10参照)を行ってください。

13. 奨学金制度等

○ 本学特有の奨学金

- ・クビリー奨学金

人物、学業ともに優れ、経済的理由により修学が困難な学生に、200,000円が給付されます。

○ 私費外国人留学生授業料減免

人物、学業ともに優れ、経済的理由により修学が困難な私費外国人留学生に、授業料の半額が減免されます。

○ 財団法人ノートルダム育英財団奨学金

当該財団の定める選考基準により、月額40,000円が給付されます。

※平成23年度(2011年度)現在

○ 日本学生支援機構(旧 日本育英会)奨学金

- ・日本学生支援機構の定めるところにより、第一種奨学金(利息無)、第二種奨学金(利息有)が貸与されます。
- ・秋季試験で本学大学院への入学が内定した者は、入学前に奨学金予約採用の申し込みが可能な場合があります。

詳細は、出願時に本学奨学金担当窓口(学務部学生係 TEL086-252-5039(直通))に問い合わせてください。

大学院の紹介

文学研究科の概要と特色

文学研究科は、日本語日本文学専攻（博士課程）、英語英米文学専攻（修士課程）、および社会文化学専攻（修士課程）の3専攻からなる。日本語日本文学専攻の博士課程はさらに、修士課程に相当する前期課程と、その上に立って博士学位取得をめざす後期課程に分かれる。

50年近い学部教育の実績のうえに立って、本学は1995年4月、文学研究科・人間生活学研究の2研究科からなる大学院を開設した。この折に文学研究科では修士課程の日本語日本文学と英語英米文学の2専攻を開き、2年後の1997年4月に日本語日本文学専攻を博士課程として、同修士課程を博士前期課程に改めた。さらに2007年4月、社会文化学専攻（修士課程）を設置した。

日本語日本文学専攻（博士前期課程）と英語英米文学専攻に共通する特色は、ともに文学2分野、語学1分野の研究分野を立て、さらにそれぞれに関係の深い思想領域の科目を配するところにある。すなわち日本語日本文学専攻では、古代中世文学・近世近代文学・日本語学の3研究分野に加え、日本思想史・日本民俗学・中国思想史からなる専門関連科目を開講する。英語英米文学専攻では、イギリス文学・アメリカ文学・英語学言語学の3専攻分野に加えて、聖書学・キリスト教思想を専門関連科目として開く。いずれも、言語と文学が密接なかかわりを持つと同様、思想もまた言語・文学と密接不可分の関係にあることに配慮したものである。

また、社会文化学専攻では、文学部現代社会学科の2コースとの対応を視野に入れて、現代社会論および社会史の2研究分野を立て、くわえて社会言語学・社会文学・文化人類学・社会倫理学の各特論を専門関連科目として、2分野の教育・研究内容がより豊かになるように配慮している。

なお、以上の博士前期課程・修士課程においては、専攻間の交流・相互刺激によって幅広い視野を醸成すべく、他専攻開設授業の単位取得を認めている。

一方、博士後期課程の日本語日本文学専攻では、日本文学・日本語学の2研究分野構成とし、関連分野に日本思想史・日本民俗学・和漢比較文学・キリスト教思想史の各特殊講義を配している。

いずれの専攻も、それぞれの専門領域に必要な高度な研究能力および実践応用能力を確実に身につけるとともに、広い視野をもって人間存在のあり方を問う敏活柔軟な知性の育成を志しており、研究職・教育職をはじめとし、各種の専門職に幅広く適応し得る高度専門職業人の養成を目指すものである。

日本語日本文学専攻博士前期課程の概要と特色

本専攻は、古代中世文学・近世近代文学および日本語学の3研究分野を区分し、それぞれの研究を進めるとともに、専門関連科目として立てた日本思想史・日本民俗学・中国思想史の各特論をも含め、これらを有機的に関連させて、新しい研究の視角を切り開こうとするところにねらいがある。

本学は、黒川文庫・正宗文庫などの多くの貴重図書を蔵して、開学以来、とりわけ古典研究に多くの業績をあげてきており、さらに最近では辞書学・方言学など日本語学関係図書を中心とする佐藤茂文庫を得ることによって、日本語学研究にも新領域を開く土台が築かれた。

(1) アドミッション・ポリシー

古代中世文学分野、近世近代文学分野、日本語学分野に関わる専門的な知識を踏まえて研究能力を発揮し、自らのねらいに基づく個性的な研究課題に対して適切な方法論によって取り組むことで、新しい知見を得ようとする意欲的な学生を求める。

(2) カリキュラム・ポリシー

3研究分野のうち、古代中世文学分野では、上代より中世にいたる文学作品および作者を研究対象範囲として、物語・日記・和歌・歌論などをとりあげて、この時代の文学の展開の諸相を究明する。

近世近代文学分野では、近世より現代にいたる文学作品と作者を研究対象範囲として、小説および文学理論をとりあげて、多角的にこの時代の文学を追究する。

日本語学分野は、大きく分類すると、古代語と近代語の2領域を研究対象範囲とし、日本社会の言語行動および日本語表現について考察するとともに、通時・共時の多角度から、日本語の総合的な研究を目指す。

専門関連科目では、日本思想史・日本民俗学・中国思想史の各特論を開講し、思想も本来、言語・文学と密接不可分の関係にあることに配慮している。

これら3分野のいずれかの領域に研究の主体を置き、研究課題を策定して、その課題に関係のある科目を選択履修することで、研究課題に応じた着実な方法論による多角的・融合的な知識によるアプローチを可能にする。

(3) ディプロマ・ポリシー

基礎的研究能力を証明する十分な単位を修得し、学問的水準を満たした修士論文を作成し、作成した修士論文が審査に合格して、さらに最終試験に合格すれば、修士（文学）の学位が授与される。

日本語日本文学専攻博士前期課程カリキュラム一覧表

研究分野	授 業 科 目	単 位	担 当 者	摘 要
古代中世文学	古代文学特論Ⅰ	4	准 教 授 新 美 哲 彦	『源氏物語』の古典化と海外受容 ※
	古代文学特論Ⅱ	4		
	中世文学特論Ⅰ	4	非 常 勤 講 師 海 野 圭 介 准 教 授 新 美 哲 彦	※
	中世文学特論Ⅱ	4		(中世文学の受容論と文献学的検討)
	古代中世文学演習	4		(古代中世文学資料研究)
近世近代文学	近世文学特論Ⅰ	4	教 授 山 根 知 子 教 授 綾 目 広 治 准 教 授 山 根 道 公 教 授 綾 目 広 治 教 授 山 根 知 子	※
	近世文学特論Ⅱ	4		※
	近代文学特論Ⅰ	4		(近代文学研究)
	近代文学特論Ⅱ	4		(近代批評研究)
	近代文学特論Ⅲ	4		(近現代文学とキリスト教研究)
	近世近代文学演習	4		(近世近代文学資料研究)
日本語学	古代語特論	4	教 授 尾 崎 喜 光 教 授 尾 崎 喜 光	※
	近代語特論	4		(自然会話文析法)
	生活語特論	4		※
	日本語表現特論	4		※
	日本語学演習	4		(現代日本語資料研究)
科 専 門 関 連 目 連	日本思想史特論	4	教 授 八 重 樫 直 比 古	(古代社会と仏教)
	日本民俗学特論	4	教 授 小 嶋 博 巳	(民俗宗教の研究)
	中国思想史特論	4	准 教 授 鈴 木 真	(近世中国の科挙と理念)

- (注) 1 このカリキュラムは、平成23年度のもので、したがって、平成24年度においては、
開講科目及び担当教員については変更されることがあります。
- 2 ※は平成23年度開講しない。

授 業 概 要

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
古代中世文学	古代文学特論Ⅰ	新 美 哲 彦	『源氏物語』の古典化と海外受容：現在、日本の「古典」と呼ばれるようになった作品群は、いつごろ、いかにして「古典」になっていったのだろうか。『源氏物語』の古典化の流れを、鎌倉時代・室町時代・江戸時代・近代以降に分け、「古典」の創造、『源氏物語』の海外受容を海外の研究論文を読みながら、学んでいく。
	中世文学特論Ⅱ	海 野 圭 介	前半では、中世随筆として『徒然草』を対象に、筆者の執筆意図を解説する。後半では、中世和歌のうち、西行の『山家集』を、人間性と絡めて鑑賞してゆく。
	古代中世文学演習	新 美 哲 彦	古代中世文学資料研究：主として平安時代から室町末江戸初にかけて成立した文学・芸能を対象に、文学研究上の課題について各自の研究テーマに即して報告と討議を行う。
近世近代文学	近代文学特論Ⅰ	山 根 知 子	日本近代文学（小説および詩・児童文学を扱う）における作品論・作家論に取り組み、さまざまな分析方法を模索し、具体的な論を試行する。また、受講者各自の研究課題についても具体的な検討を行なう。
	近代文学特論Ⅱ	綾 目 広 治	大正期から現代に至るまでの文芸批評史を展望する。代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのか、さらにそれらの問題と社会との関わりについて考察する。さらに大衆小説に焦点を絞って、作家や出版者さらに読者などからなる出版文化と、その歴史的意義についても考察する。従って、この講義は社会的な視野から見た現代文学史の講義であり、また、広い意味での現代社会思想史でもある。
	近代文学特論Ⅲ	山 根 道 公	日本の近代文学においてキリスト教と関わりのある文学作品を取り上げ、作品に即してキリスト教的主題や聖書的表現など文学研究上の課題についての分析方法を考察し、読解を試みる。
	近世近代文学演習	綾 目 広 治 山 根 知 子	学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練をする。
日本語学	近代語特論	尾 崎 喜 光	現代の話し言葉（会話）を社会言語学的観点から分析する一つの手法について解説するとともに、それを踏まえた小規模な調査の実施と分析を行う。
	日本語学演習	尾 崎 喜 光	各自のテーマについて社会言語学の視点から検討する。先行研究や資料分析の方法について討議する。
専門関連科目	日本思想史特論	八 重 樫 直 比 古	副題を「古代社会と仏教」とする。日本古代における外来文化の伝来・受容・定着の実態を明らかにし、その特質を論ずる。特に仏教を中心に提起し、古代社会の形成や展開との関わりにおいて、その果たした役割を検証する。『日本書紀』『続日本紀』『日本霊異記』を主要な史料として用い、仏教の伝来を上限とし、9世紀を下限とする。
	日本民俗学特論	小 嶋 博 巳	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について研究する。とくに、民俗宗教を形成する一つの契機である定住と漂泊の交渉に注目し、漂泊宗教者と、定住民の一時的漂泊としての巡礼をとりあげる。また、民俗社会における信仰・知識のあり方について考察する。
	中国思想史特論	鈴 木 真	近世中国における科举・宗族・思想の問題を中心に、当時の漢人社会のあり方について、歴史学の観点より考察する。

《備考》

この授業概要は、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、開講科目、担当教員及び授業概要については変更されることがあります。

英語英米文学専攻の概要と特色

本専攻は、本学の教育理念を踏まえて、英語英米文学の思想的基盤であるキリスト教思想に通暁しつつ英語英米文学の高度な専門的研究を進めるとともに、広い視野をもって人間存在のあり方を問い、生きることの意義を追究する敏活柔軟な知性の育成を志し、研究職、教育職を初めとして各種の専門職に幅広く適応する人材の養成を目指している。

(1) アドミッション・ポリシー

本専攻では、上記概要に示している教育目標に共鳴し、英語英米文学を専門的に研究しながら、国際的視野に立って広く国内外で活躍し、自己の人生を豊かにすると共に社会に貢献しようという意欲を持っている女性を求めている。

(2) カリキュラム・ポリシー

本専攻のカリキュラムは、上記の教育目標を達成するために、専門研究分野としてはイギリス文学、アメリカ文学、英語学言語学の3研究分野をもって構成し、あわせてキリスト教思想に関する科目を専門関連科目として配置して、高度な専門性と人間存在の意義を追究できる広い視野に立つ編成を旨としている。

これらの3研究分野と専門関連科目内に配置している科目の内容は次の①～④に示す通りである。

① イギリス文学分野

16・17世紀英詩、19世紀及び現代イギリス小説、エリザベス朝時代及び現代アイルランド演劇、文学批評理論の研究を進めることを通して、イギリス文学の普遍的価値への洞察を深める。

② アメリカ文学分野

19・20世紀アメリカ小説やユダヤ系アメリカ作家の文学世界を研究することにより、現代の抱える普遍的な問題点を考察するとともに、文学研究に必須の文学批評理論の研究も深める。

③ 英語学言語学分野

一般言語学の理論と方法論を活用し、統語論、意味論、語彙論等の領域で言語システムの解明と、英語教育の研究を深めていく。個別言語として、主に英語と日本語を対象とするが、言語普遍性の問題を探究し、その対照研究により、英語の本質を明らかにする。

④ 専門関連科目

英語、英米文学の基盤にあるキリスト教思想の究明を志す。言語と文学を、思想ともからめた広い視野からとらえなおすことの重要性を考えて、授業科目を配置した。

(3) ディプロマ・ポリシー

上記の3専門研究分野それぞれの基礎的研究能力を証明する十分な単位を修得し、これらの3研究分野の中で特に深く研究する分野での高度専門職業人としての基礎的問題解決能力を身につけていることを証明する修士論文の審査と、専門関連科目を含めて総合的に審査する最終試験に合格することによって修士（文学）の学位が授与される。

英語英米文学専攻カリキュラム一覧表

研究分野	授 業 科 目	単 位	担 当 者	摘 要
文 イ ギ リ 学 ス	イギリス文学特論Ⅰ	4	教 授 赤 松 佳 子	(英詩研究)
	イギリス文学特論Ⅱ	4	教 授 足 立 萬 壽 子	(イギリス小説研究)
	イギリス文学特論Ⅲ	4	教 授 藤 木 和 子	(現代アイルランド演劇研究)
	イギリス文学演習	4	教 授 足 立 萬 壽 子 教 授 David Ramsey	(イギリス文学作品研究) (イギリス文学作品研究)
文 ア メ リ 学 カ	アメリカ文学特論Ⅰ	4	准 教 授 中 村 善 雄	(19・20世紀アメリカ小説研究)
	アメリカ文学特論Ⅱ	4	教 授 広 瀬 佳 司	(ユダヤ系アメリカ作家研究)
	アメリカ文学特論Ⅲ	4	教 授 David Ramsey	(文学批評理論研究)
	アメリカ文学演習	4	教 授 広 瀬 佳 司 教 授 David Ramsey	(アメリカ文学作品研究) (アメリカ文学作品研究)
英 語 学 言 語 学	英語学言語学特論Ⅰ	4	教 授 福 島 富 士 郎	(意味と構文の研究)
	英語学言語学特論Ⅱ	4	教 授 坂 口 真 理	(現代統語理論の研究)
	英語学言語学特論Ⅲ	4	准 教 授 Robert Waring 准 教 授 高 橋 幸 子	(応用言語学・英語教育の研究)
	英語学言語学演習	4	教 授 福 島 富 士 郎 教 授 坂 口 真 理 准 教 授 Robert Waring	(英語学言語学研究) (英語学言語学研究) (英語学言語学研究)
科 専 門 関 連 目 連	聖書学特論	4	非常勤講師 江 川 憲	㊦
	キリスト教思想特論Ⅰ	4	教 授 高 木 孝 子	(女性とキリスト教)
	キリスト教思想特論Ⅱ			※

- (注) 1 このカリキュラムは、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、
変更されることがあります。
- 2 ※は平成23年度開講しない。
- 3 ㊦は集中講義をいう。

授 業 概 要

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
イギリス文学	イギリス文学特論Ⅰ	赤 松 佳 子	17世紀イギリスの詩人と呼ばれるジョン・ダンの作品を中心に、英詩を研究する。同時代詩人や後世の詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。
	イギリス文学特論Ⅱ	足 立 萬 壽 子	イギリス小説の「偉大な伝統」の流れを追いながら、取り上げる小説の「テーマと手法」を探ることによって、当作品がイギリス小説史上に占める位置を明らかにする。
	イギリス文学特論Ⅲ	藤 木 和 子	アイルランドの劇作家、ブライアン・フリールの演劇作品を読む。ローカル色豊かに描かれる人間模様の中には人間社会の抱える普遍的な問題、葛藤が見られる。その演劇手法を考察しながら、作家と作品の位置づけを試みる。
	イギリス文学演習	足 立 萬 壽 子	学生の選んだイギリス文学に関する研究テーマを中心として、資料の取り上げ方、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練をする。
	イギリス文学演習	David Ramsey	This advanced graduate seminar will investigate drama of the English Renaissance at its height, during the Elizabethan Age.
アメリカ文学	アメリカ文学特論Ⅰ	中 村 善 雄	アメリカ生まれの国際的作家ヘンリー・ジェームズの中・短編作品の講読を通じて、19世紀後半の文化をめぐる諸問題を明らかにしていき、高踏派作家として名高いジェームズ像の脱構築と、大衆文化との親和性を追及していく。
	アメリカ文学特論Ⅱ	広 瀬 佳 司	ハイム・グラデー、シンシア・オジックの短編・長編を熟読しながら、ユダヤ文化・儀式を説く。イディッシュ語の初歩も学習することで、アメリカ文学の奥行きを感じてほしい。また、「旧約聖書」との関係も考察しながら講義を進めていくので、聖書も読んでほしい。必要に応じて、ほかのユダヤ系作家にも言及していきたいと考えている。
	アメリカ文学特論Ⅲ	David Ramsey	This graduate course will provide a useful introduction to critical and literary theory. These critical tools are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.
	アメリカ文学演習	広 瀬 佳 司	シンシア・オジックの文学をアメリカ文学の枠組みとヨーロッパ文学の中で捉えながら吟味する。
	アメリカ文学演習	David Ramsey	This advanced graduate seminar will investigate prose fiction of the early 20th century in the period between the world wars.
英語学言語学	英語学言語学特論Ⅰ	福 島 富 士 郎	日常生活の言語表現や文学表現等の中に於いて、単語、句或は文がどのように使用されているかを考え、そこに使用されている隠喩、換喩の表現を言語学的に分析する。本来の意味から拡張された意味の分類的理解から、さらに深い認知言語学の領域へと理解を進めていく。
	英語学言語学特論Ⅱ	坂 口 真 理	特に話者の主観的態度を表す modality を中心に、英語の文法現象の分析を考える。様々な語用論の分野の分析方法 (speech-act theory, Grice の会話の原則, presupposition) を理解し、それによって modality を表す文法現象 (副詞・法助動詞) がどのように説明されるかを考える。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
英 語 学 言 語 学	英語学言語学特論Ⅲ	Robert Waring 高 橋 幸 子	This course will deepen the students' understanding of both the practical and theoretical sides of second language acquisition.
	英語学言語学演習	福 島 富 士 郎	語の意味と文の構文との関係を考えていく。文の中心となる動詞の意味がどのように分析、分類され、その違いがどのように統語上に反映されるのかを調べていく。
	英語学言語学演習	坂 口 真 理	特に modality を中心に、英語の文法現象の分析を考える。そのため、pragmatics の分野の様々な理論 (speech-act theory, Grice の会話の原則、前提) などに関する基礎的な文献を読む。また、様相論理学では、法助動詞をどのように分析するかを検討する。 日英の modality 表現の比較も行う。
	英語学言語学演習	Robert Waring	This course will develop the students' understanding of both the theoretical sides of English language classroom practice.
専 門 関 連 科 目	聖書学特論	江 川 憲	キリスト教思想の土台であり、英米文学にも大きな影響を与えた聖書全般 (旧約・続編・新約) の成立の過程をたどりながら、同時に、その言語と翻訳の歴史を的を絞って考察する。聖書はヘブライ語、アラマイ語、ギリシャ語から、ラテン語へ翻訳され、その後、ヨーロッパの諸言語へと翻訳されるにいたって、ヨーロッパ文化の精神的基盤となっていたその過程をたどる。
	キリスト教思想特論Ⅰ (女性とキリスト教)	高 木 孝 子	日本におけるキリスト教の研究には、欧米のキリスト教史や、社会史・文化史・女性史との密接な学際的視点が必要である。しかし特に、これまで、本格的なアメリカ研究に基礎付けられた日本キリスト教史の研究がなされたとは言い難い。そこで、本講義では、日本におけるキリスト教研究を、アメリカ女性宣教師研究の文脈上に位置付けた研究を行って行きたい。

《備考》

この授業概要は、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、変更されることがあります。

社会文化学専攻の概要と特色

本専攻は、現代社会論と社会史の2研究分野から成る。それぞれの研究の深化、発展に努めるとともに、専門関連科目をも含め、それらを有機的に関連させ、新たな研究の地平を切り拓こうとする。

(1) アドミッション・ポリシー

本専攻では次のような人材を求めている。

社会や文化に対する強い探究心等を持ち、社会現象を共時的、通時的にとらえる幅広い視野等を備え、研究者として自立した問題解決能力を獲得しようとするもの。

(2) カリキュラム・ポリシー

人間社会の諸現象を考察するために、現代社会論と社会史の2研究分野を設ける。

現代社会論分野では、とくに地域社会・社会行動・人間形成・家族の諸領域について社会学的方法によって分析し、現代社会の構造や機能を明らかにしていく。

社会史分野では日本・アジア・ヨーロッパの3地域をそれぞれ対象とする社会史と、隣接する学問領域である民俗学および考古学によって、先史時代から現代に至る社会とその文化を考察する。

さらに専門関連科目として社会言語学・社会文学・文化人類学・社会倫理学の各特論を開講して、2分野の教育・研究内容がより豊かになるように配慮している。

このようなカリキュラムにより社会と文化に対してトータルなアプローチを可能にする。

(3) ディプロマ・ポリシー

上記の2研究分野それぞれの基礎的研究能力を証明する十分な単位を修得し、作成した修士論文が審査に合格して、いずれかの特に深く研究する分野で高度専門職業人としての能力を身につけていることを証明し、さらに最終試験に合格すれば、修士（文学）の学位が授与される。

社会文化学専攻カリキュラム一覧表

研究分野	授 業 科 目	単 位	担 当 者	摘 要
現代社会論	理論社会学特論	4	非常勤講師 橋 本 和 幸 准 教 授 二階堂 裕 子 准 教 授 山 下 美 紀 教 授 小 林 修 典 教 授 小 林 修 典 准 教 授 山 下 美 紀	※
	社会行動論特論	4		
	地域社会学特論	4		
	家族社会学特論	4		
	教育社会学特論 社会学演習	4 4		
社会史	日本社会史特論Ⅰ	4	教 授 八重樫 直比古 准 教 授 藤 實 久美子 准 教 授 鈴 木 真 准 教 授 轟 木 広太郎 教 授 小 嶋 博 巳 准 教 授 紺 谷 亮 一 教 授 八重樫 直比古 准 教 授 小 嶋 博 巳 准 教 授 紺 谷 亮 一 准 教 授 藤 實 久美子	
	日本社会史特論Ⅱ	4		
	アジア社会史特論	4		
	ヨーロッパ社会史特論	4		
	日本民俗学特論	4		
	考古学特論	4		
	社会史演習	4		
専門関連科目	社会言語学特論	4	教 授 尾 崎 喜 光 教 授 綾 目 広 治 教 授 広 瀬 佳 司 教 授 加 藤 正 春 教 授 葛 生 栄 二 郎	
	社会文学特論Ⅰ	4		
	社会文学特論Ⅱ	4		
	文化人類学特論	4		
	社会倫理学特論	4		

- (注) 1 このカリキュラムは、平成23年度のもので、したがって、平成24年度においては、
開講科目及び担当教員については変更されることがあります。
- 2 ※は平成23年度開講しない。

授 業 概 要

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
現 代 社 会 論	社会行動論特論	橋 本 和 幸	近代社会の負の遺産を整理する上で、ウェーバーの合理性とデュルケームの連帯概念を検討し、現代社会の秩序原理との継続性を考える。次にグローバル・モダニティの中で、私たちは何を問題とし、いかに解決を図ればよいのかを、具体的なレベルで考える。
	地域社会学特論	二階堂 裕 子	この授業は、講義のほか、受講生による報告や討論を交えながら進められる。前半では、地域社会学の成立と展開の過程、地域社会の実態に対する先行研究の視点などを学ぶ。後半では、主に住民活動の具体的事例を取り上げる。教育の充実、市街地再生、震災復興、多文化共生などに向けた住民の取り組みについて検討を加えつつ、今後の地域社会のあり方と課題を考察する。
	家族社会学特論	山 下 美 紀	本講義では、まず家族研究の基礎となる理論、分析方法、学説史などの基本を学ぶ。さらに古典的な家族論から家族社会学分野の最新の研究成果を取り上げ、輪読形式で報告、討議、講義を行う。
	教育社会学特論	小 林 修 典	副題を「文化と人間形成」とする。青少年の社会化における文化的側面について研究し、「文化的価値観や慣習、そして社会構造が人間形成にどのような影響を及ぼしているのか」という問題について考察する。
	社会学演習	小 林 修 典	本演習では人間形成の文化的側面を扱う。今年度は、現代日本の就学前の子どもたちの、家庭と幼児教育機関における社会化をテーマとする。日本と欧米での、文化比較の観点からなされた先行研究について、そのテーマと研究方法を吟味する。
	社会学演習	山 下 美 紀	家族社会学の領域に関わる諸問題のなかから、各自の問題関心に沿った課題を設定するところから始まり、関心領域の研究意義と妥当性について吟味する。さらに、研究方法と手続きについて適切なデータを収集する力、収集した資料を有効に分析する力の習得に努めてもらう。
社 会 史	日本社会史特論Ⅰ	八重樫 直比古	副題を「古代社会と仏教」とする。日本古代における外来文化の伝来・受容・定着の実態を明らかにし、その特質を論ずる。特に仏教を中心に取り上げて、古代社会の形成や展開との関わりにおいて、その果たした役割を検証する。『日本書紀』『続日本紀』『日本霊異記』を主要な史料として用い、仏教の伝来を上限とし、9世紀を下限とする。
	日本社会史特論Ⅱ	藤 實 久美子	副題は「近世の政治文化論・書籍文化論」。第1期の前半では実用書・武鑑を素材にして民間の本屋の商業活動と徳川幕府の政治問題について、第1期の後半では徳川将軍・幕府による文化事業の政治的企図と将軍権威について考える。第2期では関連史料を読み込んでいく。
	アジア社会史特論	鈴 木 真	近世中国における科挙・宗族・思想の問題を中心に、当時の漢人社会のあり方について、歴史学の観点より考察する。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
社	ヨーロッパ社会史特論	轟 木 広太郎	テーマ「ヨーロッパ中世の靈的社会と世俗社会」 前半は、中世社会の靈的な側面について、聖遺物崇敬、修道生活、司牧、民衆異端といった問題を扱う。後半は、騎士の生活と文化、国王の権力、ならびに商人・職人・大学人らの構成する都市社会を概観する。
	日本民俗学特論	小 嶋 博 巳	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について研究する。とくに、民俗宗教を形成する一つの契機である定住と漂泊の交渉に注目し、漂泊宗教者と、定住民の一時的漂泊としての巡礼をとりあげる。また、民俗社会における信仰・知識のあり方について考察する。
	考古学特論	紺 谷 亮 一	考古学的視点から当時の社会を復元することを目指す。さらに文献資料とのコラボレーションの可能性と限界を学ぶ。ケーススタディとして主に西アジアを取り上げる。
会	社会史演習	八重樫 直比古	学生の選んだテーマを中心として、史料や研究文献の収集とその扱い方、及び史料分析の方法や、多角的かつ掘り下げた考察の習得をめざす。 日本の古代から現代に至るまでの様々な集団の盛衰や、様々な人間関係の形成過程を見ると、儒教はもとより、仏教や神祇信仰をはじめとする諸宗教が大きな役割を担っており、また価値観や行動様式の形成や変化にも、同様に大きな役割を果たして来た。諸宗教の一つを取り上げて、そうした社会的役割について、史料を駆使し先行研究に目配りしつつ考察する、その方法を習得する。
	社会史演習	小 嶋 博 巳	日本民俗学の諸課題のうちから学生が選んだテーマに沿って、民俗資料の収集（民俗調査を含む）と記述・分析、先行研究の収集と評価、さらには多角的視点からの考察を経験させ、研究能力の向上をはかる。
	社会史演習	紺 谷 亮 一	日本及び西アジアの考古学研究を中心とする。学生が選んだテーマに沿って、研究に関するフィールドワーク、資料、文献収集、分析等の方法論を習得し、考古学的考察ができるようにする。
	社会史演習	藤 實 久美子	受講者の主体的な問題意識や受講者の希望する研究課題に即して、研究に必要な指導と助言を行う。数多くの文献・史料を読み込んでいく。
専門 関 連 科 目	社会言語学特論	尾 崎 喜 光	現代の話し言葉（会話）を社会言語学的観点から分析する一つの手法について解説するとともに、それを踏まえた小規模な調査の実施と分析を行う。
	社会文学特論Ⅰ	綾 目 広 治	大正期から現代に至るまでの文芸批評史を展望する。代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのか、さらにそれらの問題と社会との関わりについて考察する。さらに大衆小説に焦点を絞って、作家や出版者さらに読者などからなる出版文化と、その歴史的意義についても考察する。従って、この講義は社会的な視野から見た現代文学史の講義であり、また、広い意味での現代社会思想史でもある。
	社会文学特論Ⅱ	広 瀬 佳 司	アメリカのユダヤ系作家と、その作品を取り上げて、作家活動や作品の分析を通して、ユダヤ系移民と、それを取り巻くアメリカ社会の関係を考察する。
	文化人類学特論	加 藤 正 春	前期は、人間生活の基本単位としての家族について、家族関係学、社会学、民俗学、文化人類学等の視角から検討する。講義では、家族関係学および家族研究の学説史を説くとともに、家族の多様性とその歴史的変容について具体的に論ずる。後期は、家族をとりまく宗教的諸事象について、幅広い観点から考察する。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
専門関連科目	社会倫理学特論	葛 生 栄二郎	現代の人間生活をとりまく社会倫理問題（生命倫理・環境倫理等）を自然法論の立場から解き明かす。また、具体的事例を通じて、日常生活に根ざす価値規範としての自然法の構造を解明する。

《備考》

この授業概要は、平成 23 年度のものであります。したがって、平成 24 年度においては、開講科目、担当教員及び授業概要については変更されることがあります。

人間生活学研究科の概要と特色

本研究科は、修士課程と博士後期課程で構成され、修士課程には人間発達学専攻人間発達学コース、人間発達学専攻臨床心理学コース、食品栄養学専攻、人間生活学専攻の3専攻・2コースが置かれている。博士後期課程には人間複合科学専攻1専攻が設置されている。修士課程の各専攻・コースには3～5研究分野が設けられ、博士後期課程の人間複合科学専攻には3研究領域が設けられている(表)。修士課程の研究分野と博士後期課程の研究領域との間には密接な関係があり、人間複合科学専攻の精神機能論領域は人間発達学専攻の両コースの研究分野に、保健栄養論領域は食品栄養学専攻の研究分野に、生活文化論領域は人間生活学専攻の研究分野にほぼ対応するものである。

表 人間生活学研究科の構成

修 士 課 程		博 士 後 期 課 程	
専 攻 ・ コ ー ス	研 究 分 野	専 攻	研 究 領 域
人間発達学専攻 人間発達学コース	発 達 基 礎 論 発 達 支 援 論 専 門 関 連 科 目	人間複合科学専攻	精 神 機 能 論
人間発達学専攻 臨床心理学コース	臨 床 心 理 論 研 究 法 分 野 基 礎 分 野 社 会 分 野 精 神 ・ 身 体 分 野		
食品栄養学専攻	栄 養 管 理 学 栄 養 学 食 品 学		保 健 栄 養 論
人間生活学専攻	人 間 社 会 論 生 活 文 化 論 生 活 経 営 論 生 活 環 境 論		生 活 文 化 論

本研究科は、本学の建学の精神、すなわちキリスト教精神とリベラル・アーツ教育の伝統に基礎を置き、人間及び人間生活を精神活動、身体維持活動、文化活動の面からとらえ、実生活に即した研究を行うとともに、修士課程においては高度専門職業人を、博士後期課程においては自立した研究者並びに高度の研究能力をもつ専門的な職業人を養成することを目的としている。

この目的を達成するため、修士課程においては、上記3専攻・2コースのいずれかの研究分野で実務的、基礎的研究活動を行う。ここで学生に要求されるのは、研究活動を通して人間と社会の実態を学び、それぞれの専攻分野における社会的、教育的、文化的等の諸問題を把握し、基礎的問題解決能力を身につけること、換言するならば、リサーチマインドを持つことである。

これに対し、博士後期課程の人間複合科学専攻では、修士課程における実務的・基礎的研究活動を基盤にして、広い視点から社会的ニーズの高い研究を行う。ここでは、修士課程の3専攻・2コースが1専攻に統合されている。これは、人間及び人間生活を、精神機能論領域、保健栄養論領域、生活文化論領域の視点から深く、かつ豊かに追究するためである。

人間発達学専攻人間発達学コースの概要と特色

本専攻の人間発達学コースは、人間の生涯発達研究上で重要な人間性の形成に関する基礎的問題、心理的適応と心の健康及び障害児に関する問題、また生涯発達の基盤となる感性や身体の健全発達の問題等を専門的に考究するコースである。併せて新しい時代の人間発達研究の学術的知見がもたらした総合生命観に基づいて、「新しいパラダイムによる人間についての発達観」の創出を試みる場となることを目指している。

(1) 人間発達学コースのアドミッション・ポリシー

本コースでは、発達基礎論、発達支援論にかかわる専門的な知識と研究能力を持つとともに、多様な研究課題に取り組む研究態度を持った学生を求める。本コースを志願する者は、学部において心理学、初等教育の教職科目についての履修をしていること、もしくは初等教育の教職経験を積んでいることが望まれる。

本コースを志願する者は、出願時に発達基礎論か発達支援論のいずれかの研究分野を選択することが求められる。

(2) 人間発達学コースのカリキュラム・ポリシー

発達基礎論と発達支援論のふたつの観点からの統合的人間発達研究による、その全体像の把握を、本コースのカリキュラム構成に反映させている。

第一の観点は、脳発達の最新の知見を中心とした発達の普遍的側面の研究である。この普遍的側面からの研究を、カリキュラムの研究分野欄では、「発達基礎論」と命名し、新しい発達観の創出基盤を究明する。

第二の観点は、生命の主体者としての個人の側面からの発達研究である。個々の人間は、人それぞれに異なる。したがって心身の発達研究には、幾通りかのパターンまたはライフ・スタイルがある。そのなかでいかに健全な発達を追求・促進するかは、重要なことである。また、人間は生活している文化のなかで、発達を促進させる。なかでも発達初期での情操教育的要因の影響力は見逃せない。第二の観点は、これらを単に統合したものではなく、教育学、情報科学、児童文学、芸術等を通して、理論を踏まえた実践的教育の側面から「発達支援論」として論じることにより、人間発達理解の深化を目指し、情操教育を中心とした発達の文化的側面から人間の発達を解明する。このことにより、教職志向の学部生の受け入れだけでなく、現職の幼、小、特別支援学校の教員のレベルアップを図ることも意図している。

加えて、人間発達を学校等の教育現場で的確に深く把握するため、「専門関連科目」として心理学と教育学に関する実践的科目を配置している。

(3) 人間発達学コースのディプロマ・ポリシー

本コースでは、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ、十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位（修士）を得るために、次のような手順を決めている。

- ・出願時に、発達基礎論か発達支援論のいずれかの研究分野を選択することを求める。
- ・入学前に研究計画書の提出を求め、これに基づいて入学後の研究指導教員を決定する。

- ・ 2年次の5月末までに研究題目を決定させ、この研究題目に基づいて、修士論文の中間発表会を行う。この場を、研究指導教員ではない教員からも広く指導を受ける機会とする。
- ・ 中間発表会における学術討論、教育指導等の内容を反映させる形で学位論文を作成させる。

本コースにおける学位論文は、以上の手順を踏まえるとともに、学位規則ならびに学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たす必要がある。

なお、本コースでは、所定の要件を満たし、必要な科目を履修することによって、幼稚園教諭及び小学校教諭の専修免許状を取得することが可能である。また、所定の要件を満たし、必要な科目を履修し、実務経験を一定期間体験すれば、学会連合資格「学校心理士」認定運営機構が心理教育援助サービスの専門家であることを認定する、「学校心理士」資格認定試験の受験資格を取得することが可能である。

人間発達学専攻人間発達学コースカリキュラム一覧表

研究分野	授業科目	単位	担当者	摘要
発達基礎論	発達心理学特論 I A	2	教授 石原金由	
	発達心理学特論 I B	2	教授 石原金由	
	発達心理学特論 II A	2	准教授 湯澤美紀	
	発達心理学特論 II B	2	准教授 湯澤美紀	
	発達心理学演習	4	教授 石原金由	
	生理心理学特論 A	2	教授 稲森義雄	
	生理心理学特論 B	2	教授 稲森義雄	
	生理心理学演習	4	教授 稲森義雄	
	大脳発達学特論	2	教授 服部幸雄	
	言語発達学特論	2	非常勤講師 井上道雄	
研究法特論	2	教授 石原金由		
発達支援論	教育実践特論 I A	2	教授 脇明子	
	教育実践特論 I B	2	准教授 吉永早苗	
	教育実践特論 II A	2	教授 脇明子	
	教育実践特論 II B	2	准教授 吉永早苗	
	教育実践特論 III A	2	教授 片山裕之	
	教育実践特論 III B	2	准教授 赤木雅之	
	発達支援論演習 I	4	教授 赤木雅之	
	発達支援論演習 II	4	准教授 赤木雅之	
	教育情報科学特論	2	教授 本保恭子	
	児童文学特論	2	教授 本保恭子	
	音楽表現発達特論	2	教授 脇明子	
	美術特論	2	教授 吉永早苗	
	特別支援教育特論	2	教授 熊澤住裕	
	社会教育特論	2	准教授 片山俊一	
生徒指導特論	2	教授 東井麻美		
専門関連科目	学校カウンセリング特論	2	非常勤講師 石原みちる	㊦
	学校カウンセリング実習	1	非常勤講師 石原愛	
	学校心理学特論	2	非常勤講師 多田志麻子	
	心理検査特論	2	准教授 中内みさ	
	心理検査実習	1	准教授 中内みさ	
	教育心理学特論	2	教授 中内みさ	
	臨床心理学特論	2	教授 稲森義雄	

(注) 1 このカリキュラムは、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、開講科目及び担当教員については変更されることがあります。

2 ㊦は集中講義をいう。

授 業 概 要

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
発	発達心理学特論 I A	石 原 金 由	アメリカ睡眠学会の編集した「Basic of Sleep Guide」を適宜解説を加えながら講読する。最終的な課題として、受講者は研究論文を1本選択し、それをまとめてもらう。
	発達心理学特論 I B	石 原 金 由	Oskar & Carskadon(Eds.) の「Sleep in Children and Adolescents」の一部を講読し、子どもの睡眠問題を把握する。その後、受講者の選択した研究論文の講読を行う。
	発達心理学特論 II A	湯 澤 美 紀	認知・自己意識・社会性・言語・遊びの他領域にわたる発達の様相を、論文・専門書講読を通して理解する。また、生活・学習場面で躓きを示す幼児・生徒に対する実際的な支援例を学びながら、そうした子どもたちに向けた支援の可能性について、適宜、検討・議論する。
達	発達心理学特論 II B	湯 澤 美 紀	認知・思考の発達を支える認知機能として、ワーキングメモリを取り上げる。ワーキングメモリについて最新の知見を概観した後に、発達障害とワーキングメモリの関連について解説する。さらに、ワーキングメモリに着目した支援の在り方について議論を深める。
	発達心理学演習	石 原 金 由	授業は、受講生の研究テーマに基づいて、文献発表を中心に、展開される。定期的に、研究計画や方法についても発表してもらい、議論してゆく。
	生理心理学特論 A	稲 森 義 雄	生理心理学で扱う生理反応の測定、そして各反応の心理学的意味について論じる。主な反応として心拍、血圧、呼吸、皮膚電気活動、皮膚温などを取り扱う。各反応の生理学的メカニズム、測定装置の取り扱い方、結果の処理について簡単に説明する。さらに、学習や注意、ストレスなどとの関連について講義する。
礎	生理心理学特論 B	稲 森 義 雄	さまざまな自律反応、筋活動、脳電気活動を取り扱うために必要な生理学的知識、測定や処理のための工学的基礎知識について講義する。A/D変換、サンプリング法、独自のプログラムの作成などについて講義し、各反応の最新の解析法について解説する。
	生理心理学演習	稲 森 義 雄	生理心理学で必要とされる知識と技法を今日的话题の実践研究を通じて体得する。従って、文献的知識、電子技術やコンピュータ処理の実際を身に付け、理論的・論理的応用の向上をめざす。
	大脳発達学特論	服 部 幸 雄	運動機能、感覚機能、連合機能など、人間存在の源泉としての脳のもつ機能とその特徴に関する理解を深める。また、脳の発達や可塑性、脳とストレスあるいは心との関係について学び、人間理解に向けての脳科学の果たす役割と可能性について考察する。
論	言語発達学特論	井 上 道 雄	ことばは、人間の行動や認知や記憶を顕在的かつ潜在的に支えているとともに、コントロールもしている。このことばと精神活動の関係のなかで、こどもの言語獲得とその発達について考えていく。「言語発達の基盤（身体や脳）」「言語と認知の発達」「言語獲得・言語発達の理論」「言語発達の障害」など。
	研究法特論	石 原 金 由	心理学の研究成果は実証的研究に基づいて蓄積されたものであり、それは工夫され、研究計画によって左右される。本授業では、「心理学研究法入門」を参考に、実験研究及び調査研究に関する研究法について講義する。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
発	教育実践特論Ⅰ A	脇 明 子 吉 永 早 苗 梶 谷 恵 子	幼児は、生活の中で豊かな五感体験、感情体験を重ね、みずから気づき、実行してみることによって、言葉をはじめとするさまざまな力を獲得していく。そうした発達を支え、促すには、まわりの大人の深い幼児理解が必要である。健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域にわたるさまざまな事例を取り上げながら、幼児理解を深めていく。
	教育実践特論Ⅰ B	脇 明 子 吉 永 早 苗 梶 谷 恵 子	いま、生活形態の変化等によって、幼児の発達にはさまざまな問題が生じており、保育現場でも対応に苦慮することが多くなっている。具体的な事例を取り上げつつ、問題の原因を理解し、健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域とも関係づけながら、実践可能な対策を見出していく。
達	教育実践特論Ⅱ A	片 山 裕 之 赤 木 雅 宣	全国学力・学習状況調査、OECD加盟国による生徒の学習状況調査(PISA)、国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)などの結果をもとに、我が国の子どもの抱えている学力を多面的に分析する。そのうえで、小学校の国語(読解力、表現力)、図画工作(表現力)に関して、より高度な総合的な指導技術を身に付けるため、カリキュラム開発、教材開発、形成的評価に基づく個別指導などの方策について、理論的な背景を検討するとともに、実際に構築し、現場での検証を行う。
	教育実践特論Ⅱ B	片 山 裕 之 赤 木 雅 宣	国語科・図画工作科で培うべき学力を明らかにし、表現力、読解力、言語力などの育成を目指した小学校低学年から高学年にかけての教育カリキュラムを構想する。その際、scopeとsequenceの両側面から考察し、試案の作成を行う。
支	教育実践特論Ⅲ A	本 保 恭 子	障害児・者やその家族が希望を持って生活するための「治療」と「教育」に関する研究・実践を行う治療教育(学)の中で、「特別支援教育」と「母子保健」の領域のシステムや取り組みの実際について解説する。治療教育(学)では、単に「治療」を障害や疾病の除去や改善、欠陥や障害の除去・軽減というように狭く捉えるのではなく、「治療教育を受ける人々の生活、人生、生命を豊かなものにしていく営み」、「苦悩とともにする教育」として実施されているが、主にその観点からこの領域の諸問題とあり方について論考する。
	教育実践特論Ⅲ B	本 保 恭 子	障害児・者やその家族が希望を持って生活するための「治療」と「教育」に関する研究・実践を行う治療教育(学)の中で、障害児を取り巻く望ましい社会環境の一端を担う「健常児への障害理解教育」と「福祉」の領域の取り組みの実際について解説し、この領域の諸問題とあり方について論考する。「福祉」については制度や社会資源の紹介にとどまらず、効果的な療育環境・方法、文化としての福祉について考えていきたい。
論	発達支援論演習Ⅰ	脇 明 子	履修希望者と個別に相談して年齢等のフィールドを絞り、そのフィールドにおける発達支援のためには何が必要で、それにはどんな環境設定をし、どんな援助をすることが可能かを探っていく。特に、わらべうた、絵本、昔話、児童文学などの児童文化財を、発達課題に照らしながら適切に活用していく道を探る。昔話や児童文学などについて、それ自体をより深く研究することを希望する場合は、それに応じたプログラムを組むことも可能である。
	発達支援論演習Ⅱ	本 保 恭 子	治療教育に関する今日の問題を著した内外の文献を精読するとともに、特別支援教育あるいは療育現場における直接的な実践を通して、効果的な治療と教育について討議する。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
発 達 支 援 論	教育情報科学特論	保 江 邦 夫	生体系を情報科学理論の観点から捉えるサイバネティックスの手法により、人間の意識を現代科学の中で研究し、その成果を人間発達理解と教育の促進に応用するための理論にまで高める。特に、新しい発達概念の構築と教育における情報科学理論の応用のための視野を広げるものとして展開される。
	児童文学特論	脇 明 子	子どもの心の発達には、絵本、昔話、児童文学などの形で物語と接していくことが、非常に重要である。それはなぜかということ、幼児、児童から、思春期までの段階を追いながら考察し、人間にはなぜ物語が必要なのかを論じていく。また、基本的な伝承文学や児童文学の傑作を具体的に取り上げ、発達課題とも関係づけながら、子どもの心の糧となりうる作品を見る目を養っていく。
	音楽表現発達特論	吉 永 早 苗 熊 澤 住 子	人はどのようにして音楽の価値に気づいていくのだろうか。講義では、子どもの音楽的表現の分析をとおして、音楽知覚やスキルの発達についての理解を深めるとともに、子どもにとって望ましい教材や音楽環境について考察する。
	美術特論	片 山 裕 之	美術概論、絵画表現、鑑賞の三分野を必要に応じて演習を交えながら授業を進める。
	特別支援教育特論	東 俊 一	特別支援教育の概要を理解したうえで、その対象、実践方法、役割と連携のありかたについて学ぶ。
	社会教育特論	西 井 麻 美	今日の社会教育の在り方に関して、国際社会及び我が国の政策や実践の動向をふまえた検討を行い、求められる人材育成の観点を明らかにしていく。
	生徒指導特論	中 内 み さ	学校教育における生徒指導・教育相談・キャリア教育の基礎的理論・意義と課題、歴史や現状等について理解を深める。また、それぞれの観点から、子どもの問題を理解し、支援計画を立て、支援のポイントを明確にしなが学校内外と連携して、具体的な支援をどう進めていくかを学ぶ。
専 門 関 連 科 目	学校カウンセリング特論	石 原 み ち る	学校教育における、児童生徒の学習面、心理・社会面、進路面および健康面の課題に対して、カウンセリング理論をふまえて対処するための理論と方法を学ぶ。学校カウンセリングについて歴史を踏まえて概観し、現在の学校における課題、その対処のための理論と実践的方法を取り上げる。
	学校カウンセリング実習	難 波 愛	初回に全体の概要とカウンセリングの基本姿勢を確認した後、全回を通してロールプレイを中心とした実習を繰り返す。ベースに傾聴実習を置いて、数回のバリエーションを体験した後に、非言語的関わりとして、スクイグルや描画を通じた関わりの実習、エンカウンターやサイコドラマ、ストレスマネジメントを用いたグループワークの実習を取り入れる。
	学校心理学特論	多 田 志 麻 子	学校心理学の理論や学校教育において一人ひとりの児童生徒が会おう不登校、非行、障害などの問題状況を学ぶ。また、問題状況の解決を援助し、児童生徒が成長することを促進する心理教育的援助サービスについて、理論と実践の両側面から考える。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
専 門 関 連 科 目	心理検査特論	中 内 み さ	福祉・教育分野でよく使用される心理教育アセスメントに関して、特に以下の検査を取り上げ、基礎的な知識や実施法、現場で実施する際の留意点等について理解を深める。①知能検査（田中ビネーV等）②発達関係検査（新版K式発達検査等）、③親子関係検査（TK式診断的新親子関係検査）。また、検査結果を分析し、それに基づいていかに支援計画を立てるかを学ぶ。 なお、WISC－Ⅲ及び遠城寺式乳幼児分析的発達検査は心理検査実習で詳しく学ぶ。
	心理検査実習	中 内 み さ	代表的な知能検査、発達検査からWISC－Ⅲ及び遠城寺式乳幼児分析的発達検査とりあげ、実施法や結果の分析の仕方を体験的に学ぶ。また、その結果をどう保護者に伝えるか、どう支援計画を立て、フォローアップしていくかについても考察していきたい。
	教育心理学特論	稲 森 義 雄	今日、学校教育は深刻なさまざまな問題に直面する一方で、新しい時代の流れや技術にさらされて、重大な岐路に立っている。そうした問題を毎回1つ取り上げ、資料に基づき正しい知識と理解を深めることを学ぶ。
	臨床心理学特論	平 松 清 志	科学の知（客観性、論理性、普遍性）と臨床の知（コスモロジー、シンボリズム、パフォーマンス）というふたつのとらえ方を対比させながら、現代を生きる子どもの心理的諸問題について考える。また、来談者中心療法、精神分析的心理療法、行動療法など、主な対人援助法の概要を学ぶ。

《備考》

この授業概要は、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、開講科目、担当教員及び事業概要については変更されることがあります。

人間発達学専攻臨床心理学コースの概要と特色

本専攻の臨床心理学コースは、臨床心理士の養成に特化されたコースである。教育目標は、教育、保健、医療、福祉などさまざまな専門職と共同体制を組んで実践活動、研究活動、専門活動のできるスクールカウンセラー、産業カウンセラー、医療カウンセラー、司法・矯正カウンセラー、心理臨床開業等の人材を養成することにある。

(1) 臨床心理学コースのアドミッション・ポリシー

本コースでは、臨床心理論にかかわる専門的な知識と研究能力を持つとともに、多様な研究課題に取り組む研究態度を持った学生を求める。本コースを志願する者は、学部において心理学に関する科目についての履修をしていることが望まれる。

(2) 臨床心理学コースのカリキュラム・ポリシー

本コースは臨床心理論、研究法分野、基礎分野、社会分野、精神・身体分野の5研究分野に計25科目の授業科目を配している。臨床心理論の13科目28単位は必修で、本コースに所属する院生のみを対象とするものである。他の研究分野の12科目は選択必修で、4研究分野にわたって、それぞれ2単位を選択し、8単位以上を修得することになっている。

このことによって、専門活動に関する科目、実践活動に関する科目、研究活動に関する科目をバランスよく履修できるようになっている。

(3) 臨床心理学コースのディプロマ・ポリシー

本コースでは、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ、十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位（修士）を得るために、次のような手順を決めている。

- ・入学前に研究計画書の提出を求め、これに基づいて入学後の研究指導教員を決定する。
- ・2年次の5月末までに研究題目を決定させ、この研究題目に基づいて、修士論文の中間発表会を行う。この場合、研究指導教員ではない教員からも広く指導を受ける機会とする。
- ・中間発表会における学術討論、教育指導等の内容を反映させる形で学位論文を作成させる。

本コースにおける学位論文は、以上の手順を踏まえるとともに、学位規則ならびに学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たす必要がある。

なお、本コースでは、修了後に財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する「臨床心理士」の受験資格を取得することができる。本コースは、財団法人日本臨床心理士資格認定協会から2005年5月に第1種大学院の指定を受け、2006年4月に入学した院生から適用されている。

人間発達学専攻臨床心理学コースカリキュラム一覧表

研究分野	授業科目	単位	担当者	摘要
臨床心理学論	臨床心理学特論Ⅰ	2	教授 平松清志	課程修了の要件として、本研究分野について28単位修得するものとする。なお、本研究分野の授業科目は、本コースに所属する学生のみを対象とする。
	臨床心理学特論Ⅱ	2	准教授 中内清み	
	臨床心理学演習	4	教授 平松清志	
		4	教授 清板芳子	
		4	准教授 中内清志	
	臨床心理面接特論Ⅰ	2	教授 清板芳子	
	臨床心理面接特論Ⅱ	2	准教授 東俊一	
	臨床心理査定演習Ⅰ	2	教授 清板芳子	
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	教授 清板芳子	
	臨床心理基礎実習	2	教授 平松清志	
	臨床心理実習	2	准教授 西内隆太郎	
			准教授 清板芳子	
			准教授 中内清志	
			准教授 東俊一	
	心理療法特論Ⅰ	2	教授 平松清志	
	心理療法特論Ⅱ	2	准教授 西内隆太郎	
	投影法特論	2	准教授 西内隆太郎	
	学校臨床心理学特論	2	教授 平松清志	
分研究分野	心理学研究法特論	2	教授 石原金由博	
	心理統計法特論	2	教授 石原金由博	
基礎分野	発達心理学特論	2	准教授 湯澤美紀	
	学習心理学特論	2	非常勤講師 井上道雄	
	生理心理学特論	2	教授 稲森義雄	
	臨床脳発達学特論	2	教授 服部幸雄	
	教育心理学特論	2	准教授 西内隆太郎	
分社会	社会心理学特論	2	非常勤講師 井上祥治	⑧
	心理臨床関連法規特論	2	非常勤講師 稲田正文	
身体・精神分野	精神医学特論	2	非常勤講師 岡田あゆみ	
	心身医学特論	2	非常勤講師 武南克子	
	障害児心理学特論	2	准教授 東俊一	

(注) 1 このカリキュラムは、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、開講科目及び担当教員については変更されることがあります。

2 ⑧は集中講義をいう。

授 業 概 要

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
臨	臨床心理学特論Ⅰ	平 松 清 志	臨床心理学とは何か、原理と方法論、歴史について、具体的な臨床活動と関連づけながら理解を深める。また、高度専門職業人としての臨床心理士について、専門家としての成長発達、職業倫理、社会的責任、記録の取り方、資格制度及び他職種との連携等について学ぶ。
	臨床心理学特論Ⅱ	中 内 み さ	精神分析、分析心理学など、いくつかの代表的な臨床心理学の理論が実際にどう生かされているかを事例から検討、考察していく。
	臨床心理学演習	平 松 清 志	臨床心理学の原理と方法論を、具体的な心理臨床活動と関連づけ、また文献資料に基づいた論考をもとにしながら、臨床心理学研究の基礎を学ぶ。
床	臨床心理学演習	清 板 芳 子	個別ケースへの心理療法、集団や組織への精神保健的援助などの心理臨床的実践の経験をもとにし、事例報告などの記述的研究、もしくは事例知見を基にした疫学的調査などに結実させていく方法を学ぶ。
	臨床心理学演習	中 内 み さ	臨床心理学の研究法について文献講読を中心に理解する。自分の心理臨床実践の体験に基づいて、事例報告の書き方や人間理解の方法など臨床心理学研究の基本を学ぶ。
	臨床心理面接特論Ⅰ	清 板 芳 子	心理臨床的面接は、医療、教育、福祉、保健、司法など領域に生ずる心理的困難に照準を合わせ、これへの精神療法、支援を展開していく活動である。この軸となる方法論としての面接の基本と実践を的確に学ばせたい。なお、それに先立ち、上記領域ごとにおける心理療法の布置や意義の違い、さらには集団面接法、家族面接法、コンサルテーション面接法などの枠組みも学びたい。
心	臨床心理面接特論Ⅱ	東 俊 一	学習理論を理解したうえで、行動論的アプローチの方法を中心にアセスメントのポイントや基本的指導技法について学び、教育・福祉・医療分野における適用について検討する。
	臨床心理査定演習Ⅰ	清 板 芳 子	まず、医療、福祉、保健、司法、教育の、各領域における心理査定の意味と位置づけについて学ぶ。これを受け、現場で高頻度に施行される知能検査、自己評価式人格検査、投影法人格検査の施行法、評価評価法を学ぶ。
	臨床心理査定演習Ⅱ	清 板 芳 子	臨床現場で活用される頻度も高く、信頼性も高度であると共通認識されているところのロールシャッハ法について理論実践の両面から詳細に学び臨床活用可能なレベルの習得をめざす。
理	臨床心理基礎実習	平 松 清 志 西 隆 太 朗	ロールプレイを用いて、コミュニケーション技術の基本、相手を理解する方法、課題を読みとる視点、援助法などを学習するほか、精神科病院、児童福祉施設などの見学実習を通して、心理臨床の現場について知る。
	臨床心理実習	清 板 芳 子 中 内 み さ 東 俊 一	1年次より継続して学内の臨床実習施設（清心こころの相談室）で学内教員のスーパービジョンの下に学生は来談事例を担当し、アセスメント法および面接法・遊戯療法の実習を行う。実習後は定期カンファレンスで報告し、担当教員、学生全員で事例検討を行う。また学外の実習施設（旭川荘《知的障害児通園施設、情緒障害児短期治療施設》、精神科病院）に於いて計120時間の実習を行い、各施設担当者と学内教員が連携して実習指導を行う。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
臨床心理論	心理療法特論Ⅰ	平 松 清 志	主として遊戯療法、芸術療法等の非言語的アプローチについて、各種の技法の要点、理論的背景、制限の問題、象徴的表現の意義、臨床実践における留意点と課題等を、具体的な臨床素材を用いて学ぶ。
	心理療法特論Ⅱ	西 隆 太 朗	心理療法の治療論について考察する。講読形式を取り入れ、主として精神分析的な心理療法における関連文献の検討をおこない、治療論における基礎的概念について学ぶ。また、臨床実践に基づいた具体例について、参加者同士のディスカッションを通じての検討をおこなう。
	投影法特論	西 隆 太 朗	投影法について、とくに被検査者との関係性を重視する立場からの検討をおこなう。イメージや語りを通じて多様な情報が得られるTATや描画を用いた投影法を実際に体験し、解釈の実際について学ぶ。また、心理療法の実際における投影法的理解について考察する。
	学校臨床心理学特論	平 松 清 志 西 崎 博 子	平成7年度から実践されている、文部科学省によるスクールカウンセリング事業をモデルに、教師カウンセラーや生徒指導担当者あるいは養護教諭との連携の問題、校内組織づくりや、教師及び児童生徒の支援の実際問題について、コミュニティアプローチの視点から学ぶ。
研究法分野	心理学研究法特論	石 原 金 由	心理学の研究成果は実証的研究に基づいて蓄積されたものであり、それは工夫され、研究計画によって左右される。本授業では、「心理学研究法入門」を参考に、実験研究及び調査研究に関する研究法について講義する。
	心理統計法特論	水 野 博	収集した心理統計データの解析とその解釈について、統計解析の基礎的事項から実際までを学修する。また、蓄積された大量の各種データをどのように整理し、活用するかというデータベースの利用方法についても述べる。
基礎分野	発達心理学特論	湯 澤 美 紀	自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを幼児期から中年期にかけて概観しながら、自尊感情の獲得や青年期の発達課題、そして保護者理解について議論する。
	学習心理学特論	井 上 道 雄	学習は、科学的心理学が始まって以来の心理学の主要なテーマである。行動主義理論から認知学習理論までの諸理論について講義する。と共に、教材を使って、学習理論の臨床面への応用について考えていく。
	生理心理学特論	稲 森 義 雄	生理心理学で扱う生理反応の性質とその心理学的意味について論じる。主な反応として心拍、血圧、呼吸、皮膚電気活動、皮膚温などの生理学的メカニズム、結果の処理について簡単に説明する。次いで、学習や注意、ストレスなどとの関連について講義する。さらに生理反応を理解するための工学的基礎知識について簡単に講義する。
	臨床大脳発達学特論	服 部 幸 雄	運動機能や感覚機能をはじめとするさまざまな脳機能とその特徴について学び、学習・記憶や脳疾患のメカニズム、ストレスと脳機能、脳と心との関係などに関する理解を深める。加えて、脳を守り育てるために脳科学が果たす役割について考察する。
野	教育心理学特論	西 隆 太 朗	教育の場は、教育者と学習者の関係性、およびその間に生じるコミュニケーションによって成立している。関係性のなかでの教育・学習の過程を心理学的に探究する方法を学び、とくに教育実践に関する事例研究の方法論について検討する。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
社 会 分 野	社会心理学特論	井 上 祥 治	自己と他者（含集団）の関わりを、自尊感情を機軸変数として社会心理学の観点から考究する。さらにこの観点を臨床社会的問題に適用する可能性について講義する。
	心理臨床関連法規特論	稲 田 正 文	心理臨床家は、社会的関係の中でクライアントを対象とした業務を行うことからして、法律制度と無関係ではありえない。「法」という考え方を理解した上で、主として福祉領域と医療保健領域における法制度を概観し、心理臨床との関わりについてとりあげる。
精 神 ・ 身 体 分 野	精神医学特論	岡 田 あゆみ	臨床心理士として活動するために必要な、一般的知識としての精神医学を学ぶ。症状の理解、診断の過程、標準的な治療について、医療関係者と共通理解を持つために重要な点を中心に取り上げる。また、将来担当するクライアントへの理解を深めるため、とくに児童から思春期の事例を中心に、モデル症例を提示して討論を行う。
	心身医学特論	武 南 克 子	心身に不調を持つ人々との心療内科での日々の臨床の場で生じる様々なことを、いろいろな視点から取り上げ、そこから何を学んでいくかを、共に考えていきたい。
	障害児心理学特論	東 俊 一	知的障害、発達障害を中心にその心理学的特性、行動特性を理解したうえで、社会生活で必要とされるさまざまなレパートリーを形成する技法について学ぶ。

《備考》

この授業概要は、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、開講科目、担当教員及び授業概要については変更されることがあります。

食品栄養学専攻の概要と特色

超高齢化社会を迎えつつあるわが国において、保健・医療・福祉・介護の領域では、高度に専門化された知識と洗練された技能を持った人材が求められている。本専攻では、リベラルアーツ・カレッジである本学の性格を大切にしながら、「食と健康」に関する基礎・応用研究、さらには臨床的な研究を進めることにより、栄養学の分野から保健・医療等の領域で、社会のニーズに応えることのできる人材の養成を目指している。同時に食に関する教育、指導ができる人材が育つことを期待している。

(1) 食品栄養学専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻では、本学の教育理念に共感し、栄養学を中心とした保健・医療等の領域で、自ら高いレベルの研究をこころざし、挑戦しようとする女性を求めている。また、幅広い知性・教養を持つための地道な努力を行い、俯瞰的な視野に立って、栄養学に関する諸問題を解決しようとする意欲のある学生を求めている。

本専攻での研究を志望する学生は、入学前に研究指導を希望する教員と面談して指導を受け、入学後の研究をスムーズに進めるための研究計画書を提出する必要がある。

(2) 食品栄養学専攻のカリキュラム・ポリシー

本専攻では、上記の社会ニーズに応えることのできる人材を育成するために、栄養管理学、栄養学、食品学の3研究分野を配し、基礎から応用・臨床的な教育研究が行える環境を整えている。栄養管理学分野では、人体生理機能および健康管理に関する教育研究を行い、栄養学分野では、臨床栄養や栄養教育に関する教育を行うとともに、栄養素の代謝や吸収障害についての基礎および応用的研究を行う。また、食品学分野では食品成分の機能特性や食文化などの分野に関して科学的な究明を行うカリキュラムを編成している。さらに必要に応じて、他専攻の関連科目も履修し、幅広い視野をもつ「食」のスペシャリストの養成を目指している。このスペシャリストとは、将来の栄養学を担う研究者・教育者であり、臨床現場でイニシアチブをとることのできる高度専門職業人としての管理栄養士および栄養教諭である。

(3) 食品学栄養学専攻のディプロマ・ポリシー

入学前に提出した研究計画書をもとに研究を進め、2年次第1期に行われる中間発表会で、進捗状況に関する評価および指導を受ける。その後、学位論文を提出し、審査会において最終評価を受けて合格する必要がある。さらに、カリキュラムを履修することにより所定の単位を修得し、修士課程の学生としての幅広い知性と教養を身につけなければならない。

なお、本専攻では別途必要な科目を履修することにより、栄養教諭の専修免許状を取得することが可能である。

食品栄養学専攻カリキュラム一覧表

研究分野	授 業 科 目	単 位	担 当 者	摘 要
栄 養 管 理 学	人体生理学特論Ⅰ	4	教 授 服 部 幸 雄	(生体機能の中枢調節機構)
	人体生理学特論Ⅱ	4	教 授 林 泰 資	(食品・医薬品と脳機能)
	栄養管理学特論	4	教 授 大 西 孝 司	(機能性成分の生活習慣病への効能・効果)
	公衆栄養学特論	4		※
	栄養管理学演習	4	教 授 大 西 孝 司	(抗酸化物質と疾病の関係)
		4	教 授 服 部 幸 雄	(本能行動および学習行動の脳内機構)
	4	教 授 林 泰 資	(食品成分の脳機能への影響)	
栄 養 学	栄養学特論	4	教 授 菊 永 茂 司	(生体と無機質との相互作用)
	臨床栄養学特論Ⅰ	4	准 教 授 白 神 俊 幸	(腸管と栄養素吸収障害・代謝障害)
	臨床栄養学特論Ⅱ	4	准 教 授 遠 藤 美 智 子	(臨床栄養と栄養教育)
	臨床医学特論	4		※
	栄養教育学特論	4	准 教 授 若 本 ゆ かり	(身体と心の栄養教育)
	栄養学演習	4	教 授 菊 永 茂 司	(身体活動と無機質の代謝)
食 品 学	食品学特論	4	教 授 北 畠 直 文	(食品の構造と機能)
	調理学特論	4	非 常 勤 講 師 今 田 節 子	(伝統食の歴史と科学)
	食文化特論	4	教 授 太 郎 良 裕 子	(伝統的食物の現状と文化変容)
	食品学演習	4	教 授 北 畠 直 文	(食品成分の機能特性)
		4	教 授 太 郎 良 裕 子	(伝統的食生活文化の伝承と文化変容)

- (注) 1 このカリキュラムは、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、
開講科目及び担当教員については変更されることがあります。
- 2 ※は平成23年度開講しない。

授 業 概 要

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
栄 養 管 理 学	人体生理学特論 I	服 部 幸 雄	人体機能、特に感覚系、運動系および中枢神経系の機能調節機構を学び、本能行動、情動、脳の発達、脳の可塑性などのメカニズムについて脳科学の視点から考察し、統合機能体として調和を維持して生きる人体に対する生理学的理解を深める。
	人体生理学特論 II	林 泰 資	様々な食品成分や経口的に摂取される可能性のある化学物質のうち、特に脳の機能に生理的および病理的な影響を及ぼす成分を紹介し、その作用メカニズムを学ぶことによって、食事と脳機能および脳の発達との関連性を学ぶ。また、日々の食生活が学習活動や社会活動に及ぼす影響について、脳科学の立場から解説する。
	栄養管理学特論	大 西 孝 司	食品の働きとしては、栄養素の供給や味覚等の嗜好面の他に、生体調節機能等が挙げられるが、その中で特に、生活習慣病の予防・改善に効果があるとされる各種の機能成分が注目されている。そこで、これらの成分の種類や働き、さらには日常生活における活用について理解を深める。
	栄養管理学演習	大 西 孝 司	我々の生体は、過剰に生成される活性酸素による障害に対して防御する機構を有しているが、その予防には食品中の抗酸化物質の摂取が有効だと云われている。そこで、その発現メカニズムを学び、多種多様な抗酸化物質の検索やその有効性を検討し、さらにはそれらと疾病との関係について研究していくことにより、日常生活での有効活用を検討したい。
	栄養管理学演習	服 部 幸 雄	生命活動の基礎をなす摂食、飲水などの本能行動および関係諸領域に関して、脳内ネットワークの解析、種々の生理活性物質の行動発現に及ぼす影響などを神経生理学および行動生理学的に検討し、その調節メカニズムを明らかにする。
	栄養管理学演習	林 泰 資	脳機能と食品成分に関する基礎的および臨床的な著書、原著論文を読み、食育を指導する立場に立って討論を行う。さらに、食品成分の脳機能への影響について、組織学的、神経生化学的および行動生理学的手法を用いて実験を行い、脳の発達や機能と食品成分の関連性を追求する。
栄 養 学	栄養学特論	菊 永 茂 司	無機質摂取の不足やアンバランスは、成長の障害、代謝の異常、種々の疾病の原因となる。このことに関する知見と研究の現況について理解し、生体と無機質との相互作用の機序を多面的に捉える。
	臨床栄養学特論 I	白 神 俊 幸	腸管上皮における各種栄養素の吸収は特殊な輸送系を介して行われている。本講では、分子病態栄養学的観点からの最新の知見を交えながら、吸収・輸送障害に関連する腸疾患等の種々の疾患およびそれらに付随する栄養障害について理解を深め、適切な栄養教育へと関連付ける。
	臨床栄養学特論 II	遠 藤 美 智 子	傷病者へ栄養教育を行うためには、療養指導に必要な広い知識と、高度な専門的知識や技術が必要である。本授業では糖尿病療養指導の基本を幅広く学び、各疾患について、事例・症例を通して病態生理、栄養管理、および栄養教育について理解を深める。
	栄養教育学特論	若 本 ゆ かり	生涯を通じた心身の健康管理には、望ましい食生活習慣確立の基盤となる自己管理能力の養成が不可欠であり、食を通じた学習指導はその要といえる。この教育活動の円滑な推進のために必要な知識と技術の習得を目指す。
	栄養学演習	菊 永 茂 司	生体と無機質の相互作用に関する研究課題の内容や、その進捗状況に沿った文献検索と講読、研究計画と実施、データ処理、学会発表、投稿論文の作成について指導する。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
食	食品学特論	北 畠 直 文	食品タンパク質、糖質、脂質を中心に、食品成分の構造、物性、機能について講義し、食品製造加工、調理との関連について論究する。さらに、食のもつ本質的意味について考察する。学術論文、学術書の購読を含む。
	調理学特論	今 田 節 子	各地に伝承される伝統食および日本料理の技術や心得について発達・形成過程を辿り、調理科学的視点より特徴を明確にすると共に、それらの有用性について論述する。また、これらの知識を反映させた食の教育のあり方についても講述する。
	食文化特論	太 郎 良 裕 子	食生活の歴史的変遷と現状に関する調査研究を通して、生活文化の視点から伝統的食生活文化が形成・伝承されてきた要因を考察し、わが国特有の米を主体とした伝統食品が新しい生活文化に順応し変容しつつある背景について理解を深める。
品	食品学演習	北 畠 直 文	食品の構造、物性、および生理作用に関する研究課題に関し、文献検索・購読を行い、研究の背景を学び、食品科学実験を行う。データの解析と結果のまとめ・考察を行い、得られた成果の発表を行う。
	食品学演習	太 郎 良 裕 子	人びとが伝承してきた食べることに関するものや技術、人びとの食物に関する概念や価値体系について、文献資料ならびにフィールドワークにより検討する。特に、児童や生徒の生活習慣病の低年齢化に対する方策を追究するために、児童・生徒自身が生涯にわたって食生活を適切に自己管理できる能力を身につける指導方法ならびに家庭と学校との連携のありかたと方法について理解を深める。
学			

《備考》

この授業概要は、平成 23 年度のものであります。したがって、平成 24 年度においては、開講科目、担当教員及び授業概要については変更されることがあります。

人間生活学専攻の概要と特色

人間生活学専攻は、人間中心の生活学を総合的・専門的視座から教授研究し、深い学識と知見を授けて学術研究の発展に資するとともに、社会の要請に応える人材を育成することを目的とする。そのために、人間社会論、生活文化論、生活経営論、生活環境論の4研究分野が密接に連携し、横断的に学修できる教育研究システムをとる。本専攻のこのような特色は、各分野や分野間にかかわる諸問題を専門的に考究し、研究課題の開発と学問研究への寄与を行うことをねらいとする。さらには、人間及び人間生活にかんする学識と豊かな人間性を備えた、社会の創造に貢献しうる21世紀型市民リーダー、高度の専門能力を有した研究者、専門職員・教員をはじめとして専門的な業務に従事しうる人材の養成を目指す。

(1) 人間生活学専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻では、上述した教育研究上の目的に共鳴し、人間及び人間生活をめぐる問題意識をもって、多様な課題を探究し、研究課題に取り組もうとするリサーチマインドをもった人に広く門戸を開いている。あわせて当該研究分野に対する学修意欲の高い人を求める。

(2) 人間生活学専攻のカリキュラム・ポリシー

本専攻のカリキュラムは、人間中心の生活学という視座から、次のような研究分野を設けている。

- ・人間の本质追求と社会とのかかわり・社会福祉等の課題を考究する人間社会論分野
- ・人々の生活を規定する文化的要素を追究する生活文化論分野
- ・人間生活そのものの科学的分析と改善向上を課題とする生活経営論分野
- ・人間生活の行われる場としての環境条件を考究する生活環境論分野

以上4研究分野に計20科目の授業科目をバランスよく配し、キリスト教にかんする理解を深めるための授業科目も用意されている。

学生は、授業科目について30単位以上修得するうち、本専攻では、学生が所属する研究分野を含む3研究分野にわたってそれぞれ4単位以上を修得することになっている。また、学生は、研究指導担当教員の承認を得て、他専攻、コースの授業科目を8単位を限度として履修することが可能である。

(3) 人間生活学専攻のディプロマ・ポリシー

学生には、必要な単位数と在学期間を満たし、高度専門職業人又は研究者としての基礎的問題解決力、課題探究力を身につけていることを認定する論文の審査と、専攻分野の学識を含めて総合的に審査する最終試験に合格することによって修士号が授与される。

そのために、本専攻では、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ、十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位を得るための手順を定め、教育研究指導体制をとっている。学位論文は、この手順を踏まえるとともに、学位規則ならびに学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たす必要がある。

なお、本専攻では、所定の要件を満たし、必要な科目を履修することによって、中学校教諭及び高等学校教諭の専修免許状を取得することができる。

人間生活学専攻カリキュラム一覧表

研究分野	授 業 科 目	単 位	担 当 者	摘 要
人間 社会 論	人間学特論	4	准 教 授 阪 本 恭 子	(女性と人間関係学)
	女性学特論	4	教 授 高 木 孝 子	(女性学から見た人格形成)
	社会倫理学特論	4	教 授 葛 生 栄 二 郎	(生命倫理・環境倫理論)
	社会福祉学特論Ⅰ	4	教 授 杉 山 博 昭	(社会福祉の歴史と思想)
	社会福祉学特論Ⅱ	4	非 常 勤 講 師 八 重 樫 牧 子	(地域社会における子育て支援)
	人間社会論演習	4	教 授 高 木 孝 子	(フェミニズム理論の検討)
			4	教 授 葛 生 栄 二 郎
		4	教 授 杉 山 博 昭	(社会福祉理論の検討)
生活 文化 論	文化交流史特論	4	教 授 横 山 學	(文化交流史から見た生活文化論)
	日本民俗学特論	4	教 授 小 嶋 博 巳	(民俗宗教から見た生活文化論)
	比較文化特論	4	准 教 授 紺 谷 亮 一	(西アジア文化論)
	家族・社会構造特論	4	准 教 授 山 下 美 紀	(家族の構造的分析)
	生活文化論演習	4	教 授 横 山 學	(近世・近代日本の生活文化面での国際的文化交流)
生活 経 営 論	生活経営学特論	4	教 授 水 谷 節 子	(時代を創る生活経営学)
	家族関係学特論	4	教 授 加 藤 正 春	(家族関係学主要論点の再考)
	消費経済学特論	4	非 常 勤 講 師 鳥 越 良 光	(現代社会における消費経済論)
	生活情報処理特論	4	教 授 水 野 博	(生活関係情報の整理と活用)
	生活経営論演習	4	教 授 水 谷 節 子	(生活経営学研究を深める)
		4	教 授 加 藤 正 春	(家族論の検討と評価)
生活 環 境 論	生活環境学特論	4	教 授 小 川 賢 一	(生活環境論)
	住環境特論	4	教 授 上 田 恭 嗣	(快適な住環境形成に向けての探究)
	食環境特論	4	教 授 菊 永 茂 司	(栄養・健康管理論)
	生活環境論演習	4	教 授 小 川 賢 一	(生活環境問題への対応策の構築)
		4	教 授 上 田 恭 嗣	(居住環境のデザインおよび住居学的研究)

(注) このカリキュラムは、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、開講科目及び担当教員については変更されることがあります。

授 業 概 要

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
人 間 社 会 論	人間学特論	阪 本 恭 子	「女性と人間関係学」というテーマで、社会のなかのさまざまな場面における人間関係を、女性はどのように構築すべきか（責務）、また構築することができるか（可能性）を追究する。
	女性学特論	高 木 孝 子	欧米における女性学の研究成果を踏まえながら、現代社会における女性のキャリア形成や家族の変容等についてライフステージに沿って考察していきたい。
	社会倫理学特論	葛 生 栄 二 郎	現代の人間生活をとりまく社会倫理問題（生命倫理・環境倫理等）を自然法論の立場から解き明かす。また、具体的事例を通じて、日常生活に根ざす価値規範としての自然法の構造を解明する。
	社会福祉学特論 I	杉 山 博 昭	日本キリスト教社会事業史。キリシタン時代の慈善事業、明治期カトリック・プロテスタントの慈善事業、カトリック・プロテスタントの社会事業、第二次大戦後カトリック・プロテスタントの社会福祉事業。
	社会福祉学特論 II	八 重 樫 牧 子	少子化の進行、共働き家庭の一般化、家庭や地域社会の養育機能の低下など子どもを取り巻く環境の変化による子ども・家庭・地域の福祉問題を明らかにし、これらの問題を解決するために展開されている子育て支援の現状と課題について検討する。
	人間社会論演習	高 木 孝 子	女性学関係の専門文献を講読し、女性学の思想・理論について検討する。
	人間社会論演習	葛 生 栄 二 郎	社会倫理上の諸問題について、欧米の最新成果を踏まえつつ、詳細に吟味する。
	人間社会論演習	杉 山 博 昭	社会福祉関係の専門文献を講読し、社会福祉の思想・理論について検討する。
	生 活 文 化 論	文化交流史特論	横 山 學
日本民俗学特論		小 嶋 博 巳	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について研究する。とくに、民俗宗教を形成する一つの契機である定住と漂泊の交渉に注目し、漂泊宗教者と、定住民の一時的漂泊としての巡礼をとりあげる。また、民俗社会における信仰・知識のあり方について考察する。
比較文化特論		紺 谷 亮 一	主に西アジアの文化について、その特異性と普遍性について解き明かす。異文化理解の方向性について考える。題材としては現代を含めた歴史性の中で取り上げていく。
家族・社会構造特論		山 下 美 紀	本講義では、まず家族研究の基礎となる理論、分析方法、学説史などの基本を学ぶ。さらに古典的な家族論から家族社会学分野の最新の研究成果を取り上げ、輪読形式で報告、討議、講義を行う。
生活文化論演習		横 山 學	近世・近代の日本において関わった諸外国との文化交流を生活文化の面で注目し、資料を分析することによって具体的に明らかにする。日本に残された外国人の日本文化見聞記や外交資料、さらに当時の日本文化の状況を語る資料を読み込んでいく。具体的には学生の研究課題について指導する。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
生 活 経 営 論	生活経営学特論	水 谷 節 子	人間の最も重要な営み「生活経営」について、現代マネジメント論の見地から学ぶ。すなわち、社会の方向に影響を及ぼす生活の理論的枠組み把握を行う。そして、これからの生活経営の在り方を考察する。
	家族関係学特論	加 藤 正 春	人間生活の基本単位としての家族について、家族関係学、社会学、民俗学、文化人類学等の視角から検討する。講義では、家族関係学および家族研究の学説史を説くとともに、家族の多様性とその歴史的変容について具体的に論ずる。日本社会の変容と家族関係のあり方について考究する。
	消費経済学特論	鳥 越 良 光	消費者の視点から、消費行動のマクロ経済に果たす役割及び重要性や問題点について今日的事象を通じて解説したい。特に、今日関心を集めている所得格差のもたらす様々な格差問題並びに少子高齢化問題、消費者問題等を取上げ、健全な経済社会における消費者の果たすべき役割や行動のあり方について、講義とディスカッションによって理解を高めたい。
	生活情報処理特論	水 野 博	収集した統計データの解析とその解釈について、統計解析の基礎的事項から実際までを学修する。また、蓄積された大量の各種データをどのように整理し、活用するかというデータベースの利用方法についても述べる。
	生活経営論演習	水 谷 節 子	人間生活の主要な基盤を構成する生活経営ジャンルの演習である。論理的な思考と客観的な視点、学問研究の方法論、研究成果のレビューとともにプレゼンテーションが大切。よってこれらに重点を置き、具体的な解説・指導も行う。
	生活経営論演習	加 藤 正 春	家族研究にかかわる諸領域の研究史を概観し、日米の家族関係学の基本的な文献をとりあげて検討を加える。
生 活 環 境 論	生活環境学特論	小 川 賢 一	地球環境と地域環境の視点から自然（動植物等）や文化、ライフスタイルを見直し、新しいまちづくり、および生活環境づくりを考察する。
	住環境特論	上 田 恭 嗣	人が生活する上で大切な住環境・都市環境について講述する。都市化・高機能化・超高齢化・少子化・景観・まちづくり等のキーワードをもとに、これからの日本に求められる住環境を探求する。
	食環境特論	菊 永 茂 司	生活習慣病の発症と食事内容や生活習慣との関連性を論じ、各疾患の予防のための食生活や生活習慣のあり方について考究する。
	生活環境論演習	小 川 賢 一	自然・生き物との共生共存を基盤とした生活環境を構築するための研究を行う。
	生活環境論演習	上 田 恭 嗣	人と住まいの生活環境、そしてその集合体でもある都市環境を研究対象として、快適な住環境を創造するための諸問題を考察する。また、日本の伝統的な住環境・住まい方等について、歴史・風土・建築技術等の面からも考究する。

《備考》

この授業概要は、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、開講科目、担当教員及び授業概要については変更されることがあります。

博士後期課程

目 次

学生募集要項	51
募集人員	51
一般選抜	51
出願資格	51
出願書類, 試験科目	52
社会人特別選抜	53
出願資格, 出願書類, 試験科目	53
外国人留学生選抜	54
各選抜共通事項	54
入学前の指導, 出願期間, 出願方法	54
選考方法, 試験日, 試験場, 試験当日に関する注意事項	55
判定通知, 入学手続	56
学費等納入金, 長期履修制度	58
奨学金制度等	59
大学院の紹介	60
文学研究科の概要と特色	60
日本語日本文学専攻博士後期課程	61
人間生活学研究科の概要と特色	65
人間複合科学専攻	66

学生募集要項

募集人員

研究科	専攻	課程	募集人員	
			秋季	春季
文学研究科	日本語日本文学専攻	博士後期課程	2	若干名
人間生活学研究科	人間複合科学専攻	博士後期課程	3	若干名

一般選抜

1. 出願資格

次の資格を備えた女子

- (1) 修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は本大学院入学の前までに修士の学位若しくは専門職学位を授与される見込みの者
- (2) 外国において修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は本大学院入学の前までに修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は本大学院入学の前までに修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は本大学院入学の前までに修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は本大学院入学の前までに修士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (6) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）
- (7) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で平成24年4月1日において24歳に達したものと認められた者
- (8) 日本国政府国費外国人留学生として推薦を受けた者

《注意》

「一般選抜」出願資格の(6)及び(7)については、次のとおりです。

(6) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）

① 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

② 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本大学院において、当該研究の成果により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(7) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で24歳に達したものと認められた者

☆ 次の基準のすべてを満たす者

① 大学を卒業後、各種の教育・研究機関等において研究又は指導に従事した期間が2年以上あること

- ② 著書、学術論文等において、修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績（学会誌に掲載された学術論文等）を有すること

前記出願資格の(6)(7)のいずれかによって出願しようとする者は、秋季試験は、平成23年(2011年)7月25日(月)、春季試験は、平成23年(2011年)12月27日(火)までに、出願資格認定のための審査を受けなければなりません。該当者は、入試広報部へ問い合わせてください。

2. 出願書類

1.	入学志願票	本大学院所定の用紙 上半身、正面、背景なし、3か月以内撮影の写真（同じもの。カラー、白黒いずれでもよい）を志願票と写真票に貼付してください。
2.	修士課程修了証明書又は 修士課程修了見込証明書	出願資格にかかわるもので、厳封されたもの
3.	成績証明書	出身大学院学長又は研究科長が作成し、厳封したもの
4.	修士論文等	(1) 修士課程修了者 修士論文(写) (2) 修士課程修了見込の者 修士論文予定の論文(写) (3) 上記以外の者 修士論文に代わる既刊の研究論文及び研究業績一覧
5.	研究計画書	本大学院所定の様式に従い、志願の動機、目的及び入学後の研究計画を記入したもの
6.	受験科目選定申告書	本大学院所定の用紙
7.	長期履修申請書	本大学院所定の用紙（該当する志願者のみ）
8.	長期履修計画書	本大学院所定の用紙（該当する志願者のみ）

3. 試験科目

試験	専攻	課程	試験科目 時間	科目名
筆記試験	日本語日本文学専攻	博士後期課程	外国語 9:00～10:00	日本語、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の5か国語から1か国語を出願時に選択（自国語は選択できません。） ※辞書持ち込み可
			専門科目 10:30～12:00	志願者各自の専門分野に関するもの
	人間複合科学専攻	博士後期課程	外国語 9:00～10:00	英語 ※辞書持ち込み可
			専門科目 10:30～12:00	次の研究領域に関連した3科目のうち1科目を出願時に選択 (1) 精神機能論領域 (2) 保健栄養論領域 (3) 生活文化論領域 ※研究計画との整合性に留意のこと
面接試問	13:00～			※人間複合科学専攻は、修士論文又はこれに代わる研究論文を中心に行います。

《注意》

辞書持ち込み可の科目であっても、電子辞書の持ち込みは不可とします。

社会人特別選抜

1. 出願資格

次の資格を備えた女子

「一般選抜」における出願資格の(1)～(7)のいずれかに該当し、かつ、入学時に27歳以上である者

2. 出願書類

1.	入学志願票	本大学院所定の用紙 上半身、正面、背景なし、3か月以内撮影、縦4cm×横3cmの写真(同じもの。カラー、白黒いずれでもよい)を志願票と写真票に貼付してください。
2.	修士課程修了証明書	出願資格にかかわるもので、厳封されたもの
3.	成績証明書	出身大学院学長又は研究科長が作成し、厳封したもの
4.	修士論文等	(1) 修士課程修了者 修士論文(写) (2) 上記以外の者 修士論文に代わる既刊の研究論文及び研究業績一覧
5.	研究計画書	本大学院所定の様式に従い、志願の動機、目的及び入学後の研究計画を記入したもの
6.	受験科目選定申告書	本大学院所定の用紙(該当する志願者のみ)
7.	長期履修申請書	本大学院所定の用紙(該当する志願者のみ)
8.	長期履修計画書	本大学院所定の用紙(該当する志願者のみ)

《備考》

社会人で、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例の適用を受けようとする者は、入試広報部へ問い合わせてください。

※ 大学院設置基準第14条では、教育方法の特例として①「夜間」、②「特定の時間」、③「特定の時期」に教育を行うことができますと規定しています。本大学院では、①「夜間」及び③「特定の時期」には教育を行っていませんが、②「特定の時間」について適用する場合があります。この「特定の時間」の適用の内容は、次のとおりとなっています。

☆ 「特定の時間」を適用する場合は、博士後期課程の1～3年次を実施します。

☆ その内容は、学生が課程修了の要件として必要な科目を履修する際に、教員が授業又は研究指導の時間を学生の都合に合わせて調整するものです。

3. 試験科目

試験	専攻	課程	試験科目時間	科目名
筆記試験	日本語日本文学専攻	博士後期課程	専門科目 10:30～12:00	志願者各自の専門分野に関するもの
	人間複合科学専攻	博士後期課程	専門科目 10:30～12:00	次の研究領域に関連した3科目のうち1科目を出願時に選択 (1) 精神機能論領域 (2) 保健栄養論領域 (3) 生活文化論領域 ※研究計画との整合性に留意のこと
面接試験	13:00～			※人間複合科学専攻は、修士論文又はこれに代わる研究論文を中心に行います。

外国人留学生選抜

外国人留学生については、特別入試も行っています（秋季のみ）。

希望者は、本学入試広報部へ照会してください。

各選抜共通事項

1. 入学前の指導

博士後期課程志願者は、秋季試験は、平成 23 年（2011 年）7 月 25 日（月）、春季試験は、平成 23 年（2011 年）12 月 27 日（火）までに、面談により志望する専攻の専攻主任及び各研究分野・研究領域の担当教員の指導を受けなければなりません。

文学研究科日本語日本文学専攻志願者は、日本語日本文学専攻主任及び志望する研究分野の担当教員の指導を受けてください。（各研究分野の概要及び担当教員については P. 60～64 を参照してください。）

人間生活学研究科人間複合科学専攻志願者は、人間複合科学専攻主任及び志望する研究領域の担当教員の指導を受けてください。（各研究領域の概要及び担当教員については P. 65～71 を参照してください。）

なお、入学前の指導を受ける場合は、入試広報部宛に、E-mail（メールアドレスは、裏表紙参照）でお問い合わせください。

2. 出願期間

（秋季）平成 23 年（2011 年）8 月 25 日（木）～9 月 1 日（木）消印有効

（春季）平成 24 年（2012 年）1 月 30 日（月）～2 月 6 日（月）消印有効

〔注〕海外からの出願は、期間内必着とします。

3. 出願方法

(1) 入学検定料 30,000 円

- ① 志願票一連のつづりは、切り離さないで必要事項を記入し銀行へ持参してください。
- ② 入学検定料は最寄りの銀行窓口（ゆうちょ銀行は不可）から振り込み納入してください。ATM やインターネットバンキングなどで振り込みをされた場合は、提出書類等に取扱店収納印がないため、書類を受理することができません。
- ③ **振り込んだ後、A・E 票に取扱店収納印があることを確認してください。**
- ④ E 票は領収書なので大切に保管してください。

(2) 前記書類を取り揃え、ノートルダム清心女子大学入試広報部宛に郵送（簡易書留速達）又は持参してください。

(3) 出願書類を持参する場合の受付時間は、8:30～16:30 です。（土曜、日曜、祝日、本学休業日を除く。春季は土曜日も 12:30 まで受け付けています。）

《受付》ノートルダム清心女子大学 入試広報部

〒700-8516 岡山市北区伊福町 2-16-9

TEL 086-255-5585（直通）

(4) 出願後の志望研究科・専攻、課程及び選択受験科目の変更は一切認めません。

(5) 受験票は、出願締切後本人宛に発送します。

(秋季は9月7日頃、春季は2月13日頃一括して投函する予定です。)

※受験票には、志望研究科・専攻、課程、受験番号、氏名(カナ)等が記載されています。記載内容や住所表示が異なる場合は、直ちに入試広報部まで問い合わせてください。

○ **いったん提出された出願書類及び入学検定料は、いかなる場合も返却しません。**

(6) 身体に障害を有する入学志願者との事前相談

身体に障害(学校教育法施行令第22条の3に定める身体障害の程度)がある者には、受験上の特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願開始日の1週間前(秋季試験の場合は、平成23年(2011年)8月12日(金))までに、本学入試広報部にお申し出ください。

なお、相談の内容によっては、対応に時間を要することもありますので、できる限り早い時期に相談してください。

(7) 出願後の受験上の特別な措置

出願後に不慮の事故等(交通事故、発病等)のため受験上の特別な措置を希望する者は、速やかに本学入試広報部に問い合わせてください。

なお、申請が試験直前であったり、申請内容への対応が直ちにできないような場合には、希望する措置が行えないこともありますので、御了承ください。

4. 選考方法

- (1) 書類審査
- (2) 筆記試験(各専攻別)
- (3) 面接試問

5. 試験日

〈秋季〉平成23年(2011年)9月21日(水)

〈春季〉平成24年(2012年)2月23日(木)

6. 試験場

ノートルダム清心女子大学(裏表紙 大学案内図参照)

7. 試験当日に関する注意事項

- (1) 自家用車の乗り入れを禁止します。
- (2) 正門から建物に入ってください。
- (3) 9:00からの受験者は8:30から8:40までに、10:30からの受験者は10:00から10:10までに、受付(正面玄関)で出席確認後、試験開始15分前までには試験室へ入室してください。
- (4) 注意事項

①試験時間中、机の上に置けるものは、下記のものだけです。

受験票、筆記用具(鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り)、時計(時刻のみを表示するもの)、辞書(持ち込みを認められている試験のみ)

携帯電話等の通信機器は、試験室に入る前に電源を切り、身につけないで、カバンなどにしま

っておいてください。

その他の所持品は、カバンなどにまとめて座席の下に置いてください。

- ②試験時間中に配付した問題冊子等は、全て回収しますので持ち帰ることはできません。
- ③遅刻した場合、試験開始後 20 分まで受験を認めますので、誘導係員に申し出てください。
- ④試験時間中は監督者・面接官の指示に従ってください。従わない場合は不正行為となることがあります。
- ⑤当日受験票を忘れた者は、誘導係員に申し出て指示を受けてください。
- ⑥試験当日は、各自昼食を持参してください。(大学では販売していません。)
- ⑦引率者の方は、試験当日、引率者控室以外には立ち入らないでください。

8. 判定通知

〈秋季〉平成 23 年 (2011 年) 9 月 26 日(月)

〈春季〉平成 24 年 (2012 年) 2 月 27 日(月)

判定結果は、受験者本人宛に速達で郵送します。(合格者には、入学書類も同封します。)

- 〈秋季〉9 月 28 日(水)までに判定通知が届かない場合は、9 月 29 日(木)の 8:30 ~ 16:30 の間に入試広報部(TEL086-255-5585)にお問い合わせください。
〈春季〉2 月 29 日(水)までに判定通知が届かない場合は、3 月 1 日(木)の 8:30 ~ 16:30 の間に入試広報部(TEL086-255-5585)にお問い合わせください。
- 判定通知未着を除く判定結果についての電話での問い合わせ、電報の依頼には一切応じていません。本学発信以外の応答には責任を負いません。

9. 入学手続

- (1) 合格者は、下記手続期間内に必要書類及び入学手続金を取り揃え手続を済ませてください。

それぞれの期日までに手続を終了しない場合は、入学の意思がないものとみなします。

- (2) 入学手続金

区 分	入 学 手 続 金 項 目	金 額	備 考
第 1 次 手 続	入 学 金	300,000 円	本大学院博士前期課程・修士課程からの進学者からは、入学金を徴収しません。
第 2 次 手 続	授 業 料 (第 1 期分) 施 設 ・ 設 備 費 (1 年次分)	280,000 円 150,000 円	

- (3) 入学手続書類

区 分	手 続 書 類	備 考
第 1 次 手 続		提出書類はありません。
第 2 次 手 続 又は一括手続	誓 約 書 所 属 長 の 同 意 書	銀行振込用紙一連つづりの一部 学校、会社等に在職中で入学後も在籍する者のみ提出(書式自由)

- (4) 入学手続期間

〈秋季〉

区 分	手 続 期 間
第 1 次 手 続	平成 23 年 (2011 年) 9 月 27 日(火)~平成 23 年 (2011 年) 10 月 7 日(金)
第 2 次 手 続	平成 23 年 (2011 年) 9 月 27 日(火)~平成 24 年 (2012 年) 3 月 19 日(月) 消印有効

[注] 海外からの入学手続は、期間内必着とします。

〈春季〉

区 分	手 続 期 間
一 括 手 続	平成 24 年 (2012 年) 2 月 28 日(火)～平成 24 年 (2012 年) 3 月 19 日(月) 消印有効

[注] 海外からの入学手続は、期間内必着とします。

- 一括手続の入学手続金は、前記第 1 次手続と第 2 次手続の合計です。
- 銀行振込用紙は、一連となっています。切り離さないで必要事項を記入して、最寄りの銀行窓口（ゆうちょ銀行は不可）から振り込み納入してください。ATM やインターネットバンキングなどで振り込みをされた場合は、提出書類等に取扱店収納印がないため、書類を受理することができません。
- 第 2 次手続又は一括手続では、振り込んだ後、提出書類（誓約書）の取扱店収納印を確かめて、本学入試広報部へ郵送又は持参してください。
- 書類を郵送する場合は、速達としてください。
- 書類を持参する場合の受付時間は、8:30 ～ 16:30 です。（日曜、祝日、本学休業日を除く。土曜日は 12:30 まで）
- ※ 手続期間内の日曜・祝日を除く本学休業日は、下記のとおりです。
12 月 8 日(木)、12 月 29 日(木) ～ 1 月 4 日(水)
- 前記第 2 次手続または一括手続が完了した場合は、入学許可書を本人宛に郵送します。
- 第 1 次手続のみ終了した時点では、本学から送付する書類はありません。領収書は大切に保管してください。
- 所属長の同意書は、第 2 次手続または一括手続締切日から 1 週間以内に、提出してください。
- (5) 入学辞退者への納付金返還に係る対応について
平成 24 年度（2012 年度）の大学院入学試験（一般選抜・社会人特別選抜）による第 2 次手続もしくは一括手続完了後の入学辞退者には、下記のように対応します。
 - ① 納入された学費等は返還しません。ただし、次の期間に本学が定める手続により入学を辞退した場合に限り、入学金を除く学費等（授業料、施設・設備費）は、それに相当する額を返還します。
 - 1) 郵送の場合は、簡易書留速達郵便で平成 24 年（2012 年）3 月 31 日(土)の消印有効。
 - 2) 本学入試広報部に持参の場合は、平成 24 年（2012 年）3 月 31 日(土) 12:30 まで。
 - ② 平成 24 年（2012 年）4 月 1 日(日)以降に辞退した場合には、学費等納入金は返還しません。
 - ③ 納付金返還を希望する者は、「入学辞退届・学費等返還金振込先金融機関届」に必要事項を記入し、第 2 次手続もしくは一括手続完了者に送付される「入学許可書」を添え、入試広報部へ提出してください。
- 返還手続に必要な入学手続要項及び手続書類（「入学辞退届・学費等返還金振込先金融機関届」等）は、合格者に判定通知とともに送付します。
- 必要な手続を完了した場合は、4 月末日までに所定の納付金を返還します。
- 返還の対象となるのは、第 2 次手続もしくは一括手続完了者のみです。第 1 次手続のみ完了している場合は、返還の対象とはなりません。

10. 学費等納入金

(1) 学費等

下記金額を4月と10月に分納します。

納 入 金	文 学 研 究 科	人 間 生 活 学 研 究 科
授 業 料 (年額)	560,000 円	560,000 円
施 設 ・ 設 備 費 (年額)	150,000 円	150,000 円
教 育 充 実 費 (年額)	74,000 円	44,000 円
実 験 実 習 演 習 費 (年額)	31,000 円	64,000 円
衛 生 冷 暖 房 費 (年額)	50,000 円	50,000 円
合 計	865,000 円	868,000 円

(2) 学生教育研究災害傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料

教育研究活動中及び通学途上に被った不慮の災害に対する救済措置として、また、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る損害賠償を補償する措置として、学生教育研究災害傷害保険と学研災付帯賠償責任保険に加入することになっています。保険料は、入学時（4月）に徴収します。

専 攻	日 本 語 日 本 文 学 専 攻 ・ 人 間 複 合 科 学 専 攻 共 通
保 險 種 別	
学 生 教 育 研 究 災 害 傷 害 保 險	2,100 円
学 研 災 付 帯 賠 償 責 任 保 險	1,020 円
合 計	3,120 円

※ 保険料は3年間分で、平成23年度（2011年度）保険料です。

11. 長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有している等の事情により、定められた修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、3年間の標準修業年限を超えて、4年間～6年間で計画的に教育課程の修学を認めるものです。適用を認められた場合、納入する学費等の総額は3年間分ではなく、3年間分の学費等を、認められた履修年数で除した額を毎年納入することになります。

(1) 申請資格

長期履修の申請ができるのは、職業を有している等の事情により、定められた修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限ります。

※職業を有している等とは、有職者（正規職員以外も含み、主としてその収入で生計を立てている者）及び、出産、育児、介護、その他のやむを得ない事情により、フルタイム学生としての修学が困難な事情にあることをいいます。

(2) 申請手続時期および期間

入学前（出願期間）又は入学後2年未満とします。入学後の申請手続期間は毎年2月上旬とします。

(3) 認める期間

長期履修を認める期間は4年～6年とします。（すでに在学した期間を含めて、全体で6年を超えることはできません。）

(4) 授業の履修計画

授業の履修及び単位の修得については、研究指導担当予定教員等の指導を受け、計画的な授業履修及び単位修得となるよう努めてください。

(5) 申請から審査結果通知まで

・志願票の長期履修希望欄に記入の上、長期履修申請書と長期履修計画書を、その他の出願書類と

ともに提出してください。

- ・試験日当日の面接試問終了後等に、修学の条件等について確認を受けてください。
- ・合格した場合、提出書類にもとづいて審査を行います。
- ・審査結果は判定結果とともに通知します。

(6) 入学手続

長期履修制度の適用を認められた者は、長期履修者用の銀行振込用紙を用い、入学手続(P. 56 参照)を行ってください。

12. 奨学金制度等

○ 本学特有の奨学金

- ・クビリー奨学金

人物、学業ともに優れ、経済的理由により修学が困難な学生に、200,000 円が給付されます。

○ 私費外国人留学生授業料減免

人物、学業ともに優れ、経済的理由により修学が困難な私費外国人留学生に、授業料の半額が減免されます。

○ 日本学生支援機構（旧 日本育英会）奨学金

- ・日本学生支援機構の定めるところにより、第一種奨学金（利息無）、第二種奨学金（利息有）が貸与されます。

大学院の紹介

文学研究科の概要と特色

文学研究科は、日本語日本文学専攻（博士課程）、英語英米文学専攻（修士課程）、および社会文化学専攻（修士課程）の3専攻からなる。日本語日本文学専攻の博士課程はさらに、修士課程に相当する前期課程と、その上に立って博士学位取得をめざす後期課程に分かれる。

50年近い学部教育の実績のうえに立って、本学は1995年4月、文学研究科・人間生活学研究の2研究科からなる大学院を開設した。この折に文学研究科では修士課程の日本語日本文学と英語英米文学の2専攻を開き、2年後の1997年4月に日本語日本文学専攻を博士課程として、同修士課程を博士前期課程に改めた。さらに2007年4月、社会文化学専攻（修士課程）を設置した。

日本語日本文学専攻（博士前期課程）と英語英米文学専攻に共通する特色は、ともに文学2分野、語学1分野の研究分野を立て、さらにそれぞれに関係の深い思想領域の科目を配するところにある。すなわち日本語日本文学専攻では、古代中世文学・近世近代文学・日本語学の3研究分野に加え、日本思想史・日本民俗学・中国思想史からなる専門関連科目を開講する。英語英米文学専攻では、イギリス文学・アメリカ文学・英語学言語学の3専攻分野に加えて、聖書学・キリスト教思想を専門関連科目として開く。いずれも、言語と文学が密接なかかわりを持つと同様、思想もまた言語・文学と密接不可分の関係にあることに配慮したものである。

また、社会文化学専攻では、文学部現代社会学科の2コースとの対応を視野に入れて、現代社会論および社会史の2研究分野を立て、くわえて社会言語学・社会文学・文化人類学・社会倫理学の各特論を専門関連科目として、2分野の教育・研究内容がより豊かになるように配慮している。

なお、以上の博士前期課程・修士課程においては、専攻間の交流・相互刺激によって幅広い視野を醸成すべく、他専攻開設授業の単位取得を認めている。

一方、博士後期課程の日本語日本文学専攻では、日本文学・日本語学の2研究分野構成とし、関連分野に日本思想史・日本民俗学・和漢比較文学・キリスト教思想史の各特殊講義を配している。

いずれの専攻も、それぞれの専門領域に必要な高度な研究能力および実践応用能力を確実に身につけるとともに、広い視野をもって人間存在のあり方を問う敏活柔軟な知性の育成を志しており、研究職・教育職をはじめとし、各種の専門職に幅広く適応し得る高度専門職業人の養成を目指すものである。

日本語日本文学専攻博士後期課程の概要と特色

本課程は、後期3年の課程で、博士前期課程との連続性を重視した積み上げ方式であり、教育・研究の内容は、日本文学と日本語学の2研究分野を根幹として、これに関連分野を配した。

根幹をなす2研究分野は、特殊講義と研究指導の軸をなす課題研究とで構成する。

(1) アドミッション・ポリシー

本課程は、修士課程設置に際して設定した目標を継続発展させ、高度な専門性を持つ職業人の育成を第一とし、あわせて、高度な研究能力・学識をもつ研究者の養成を目的とする。このため、専門研究の深化を図るとともに、広い視野をもって人間存在のあり方を問う、敏活柔軟な知性を養おうとする学生を求める。また、研究職・教育職をはじめとし、各種の専門職に幅広く適応し得る高度専門職業人たらしとする意欲的な学生を求めている。

(2) カリキュラム・ポリシー

本専攻では、日本文学と日本語学の2研究分野を根幹として、これに関連分野を配しており、それぞれ次のように構成している。

日本文学研究分野の古代中世特殊講義及び近世近代文学特殊講義においては、日本文学を代表する和歌・物語と近世近代の小説を中心とする科目を核として、文芸学と文献学の両面から文学研究の方法について指導し、これに、文学史の時代区分を基準として各時代の作品研究の科目を配することによって、日本文学の幅広い知識の修得と、ジャンル・作品に即した専門的研究が可能になるように配慮している。

日本語学研究分野の日本語学特殊講義においては、現代日本語の諸問題を幅広く追求し、これに、古代語の文字表現についての研究、未開拓資料を対象とする近代語研究など、多様な領域・対象を扱う科目を配することにより、さまざまな視点と方法による日本語の共時的、通時的研究を深めることができるように配慮している。

関連分野では、日本思想史・日本民俗学・和漢比較文学・キリスト教思想史に関する特殊講義を配している。

(3) ディプロマ・ポリシー

本専攻では、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位を得るために、次のような手順を定めている。

- ・ 専攻として年3回の研究発表会の機会を設けている。各学生の博士論文提出の目標年次にねらいを定めながら、計画に応じて、各回の発表の機会を利用し発表を行うことで、研究の意義と目標、現在の達成度と今後の見通し等について評価を受け、検討を加えることにより、着実に博士論文の全体構想を確認し完成度を高める。
- ・ 提出後の口頭試問。主査1名と副査3名によって、審査を行う。
- ・ 学会誌への投稿・掲載。学生は学位論文提出の時点までに、研究内容の一部を査読付きの学会誌に投稿・掲載し、自らの研究を公にして広く学的評価を受けておかなければならない。

本専攻における学位論文は以上の手順を踏まえるとともに、学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たす必要がある。

日本語日本文学専攻博士後期課程カリキュラム一覧表

研究分野	授業科目	単位	担当者	摘要
日本	古代中世文学特殊講義Ⅰ	4	准教授 新美 哲彦	(文献学・書誌学)
	古代中世文学特殊講義Ⅱ	4	教授 八重樫 直比古	(古代説話集論)
	古代中世文学特殊講義Ⅲ	2	非常勤講師 阿部 泰郎	(魔王と生身) (集)
	古代中世文学課題研究	4	教授 八重樫 直比古 准教授 新美 哲彦	(古代中世文学の諸問題)
文学	近世近代文学特殊講義Ⅰ	4		※
	近世近代文学特殊講義Ⅱ	4	教授 山根 知子	(近代文学作品研究)
	近世近代文学特殊講義Ⅲ	2		※
	近世近代文学特殊講義Ⅳ	4	教授 綾目 広治	(現代文学作品研究)
	近世近代文学課題研究	4	教授 綾目 広治 教授 山根 知子	(近世近代文学の諸問題)
日本語学	日本語学特殊講義Ⅰ	4	教授 尾崎 喜光	(日韓対照社会言語学)
	日本語学特殊講義Ⅱ	4	非常勤講師 瀬間 正之	(上代の文字表現) (集)
	日本語学特殊講義Ⅲ	4	非常勤講師 三宅 ちぐさ	(語彙の種々相)
	日本語学課題研究	4	非常勤講師 氏家 洋子 教授 尾崎 喜光	(言語表現に映し出された認識活動と精神文化) (現代日本語研究の諸問題)
関連	日本思想史特殊講義	4		※
	日本民俗学特殊講義	4	教授 小嶋 博巳	(民俗宗教の歴史と構造の研究)
	和漢比較文学特殊講義	2	非常勤講師 本間 洋一	(菅原道真の漢詩を読む) (集)
	キリスト教思想史特殊講義	4		※

- (注) 1 このカリキュラムは、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、開講科目及び担当教員については変更されることがあります。
- 2 ※は平成23年度開講しない。
- 3 (集)は集中講義をいう。

授 業 概 要

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
日 本 文 学	古代中世文学特殊講義Ⅰ	新 美 哲 彦	写本・版本の扱い方：近世以前の作品の場合、諸本が複数あるのが通例である。そのため、テキストを読み解く以前の基礎作業として、諸本の分類、底本の選定、本文の校訂など、読むテキストを定める作業が存在する。さらにその作業の前段階の調査やその作業を補充するものとして、古典籍の取り扱い方を学ぶ必要がある。それら基礎作業を、特殊文庫の本を用いながら、学んでいく。
	古代中世文学特殊講義Ⅱ	八 重 樫 直 比 古	『日本霊異記』を初めとする古代説話集を取り上げる。古代説話集は初めから仏教説話集として出現する。そこに見られる仏教は、今日的な常識とはかなりかけ離れた様相を呈する。古代説話集における仏教とはいかなるものか、またなぜ説話集は編纂されたのか、その具体相を、説話の読み込みを通して明らかにしてみたい。
	古代中世文学特殊講義Ⅲ	阿 部 泰 郎	仏教を受容した日本では、その象徴である仏像の聖性をめぐって、人間の苦悩や受難を、造られたモノとしての仏像が身代りとなって傷付くという霊験譚が、古代から中世にかけて広く流布していた。また仏像そのものが生ける如来や菩薩として造られ祀られる「生身」信仰が、普遍的なく聖なるものとして出現する。その一方、仏法を滅し障碍しようとする“反仏法”の存在が、たとえば「天狗」という説話上の存在として中世に登場する。それはまた、「第六天魔王」の伝承のような、中世につくりだされたあらたな神話として展開する。そうした、中世日本の＜聖なるもの＞と反＜聖なるもの＞＝＜魔＞の両義的な世界像とその系譜を、中世説話や文学作品、芸能など領域を越えて探究する。
	古代中世文学課題研究	八 重 樫 直 比 古 新 美 哲 彦	学生の選んだ研究テーマに即して、研究に必要な指導と助言を行なう。研究史を十分に押さえ、先行研究を批判的に継承、発展させ、その上で独創的で説得力に満ちた学説を盛り込んだ博士論文が完成するように、指導と助言に努めたい。口頭での報告やそれを文字化したレポートや論文の提出を随時求める。
	近世近代文学特殊講義Ⅱ	山 根 知 子	日本近代文学の作品を対象に、一次資料から二次資料にいたる綿密な調査および系統的な整理を行い、そうした基礎資料の把握を踏まえた本文批評を経て、目的および方法論を明確にした作品論・作家論に取り組みたい。
	近世近代文学特殊講義Ⅳ	綾 目 広 治	日本近代の小説及び批評の研究を行う。受講生の論文作成に資する文献を読んでいく。
	近世近代文学課題研究	綾 目 広 治 山 根 知 子	学生個人の主体的な問題意識や学生の希望する研究課題に、指導教員が協力し、集中的、焦点的に取り組む研究の場である。課題に対して、指導の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成の助言と指導を行う。
日 本 語 学	日本語学特殊講義Ⅰ	尾 崎 喜 光	言語行動およびその背後にある対人行動意識に関する対照研究（日韓）の調査方法の一つについて解説するとともに、既存のデータ（下記教材に添付）を用いての分析を試みる。
	日本語学特殊講義Ⅱ	瀬 間 正 之	郷歌・吏読などの古代朝鮮半島資料、六朝から初唐の漢籍・漢訳仏典などの大陸資料との比較を中心に、記紀万葉がそれぞれに達成した文字表現の方法を、東アジア漢字文化圏の中で捉えることを試みる。

研究分野	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
日 本 語 学	日本語学特殊講義Ⅱ	三 宅 ち ぐ さ	語彙の重要性・他の研究分野（文法・文体など）との関わり・研究法・研究成果等を学ぶと同時に、その知識・理解をより深め確かなものとするため、身近な語彙を材料に内省や調査を実践する。
	日本語学特殊講義Ⅲ	氏 家 洋 子	先人が自然的、生産的、社会的条件の中でコミュニケーション活動を続けてきた結晶としてある言葉を精神文化と捉え、探究する。日本語を母語として継承した人間の精神活動にそれはどんな指針や制約をもたらすのか。言語文化学（社会・心理言語学を含む）と、異言語、特に英語との比較対照をする対照言語学の立場とから日本語の精神文化を考察する。
	日本語学課題研究	尾 崎 喜 光	各自の問題意識やテーマに、集中的、焦点的に取り組む。この間、博士論文作成に向けての討議を深める。
関 連	日本民俗学特殊講義	小 嶋 博 巳	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について研究する。とくに、民俗社会における信仰・知識のあり方、仏教をはじめとする成立宗教と民俗宗教の関係に焦点を当てて考察する。
	和漢比較文学特殊講義	本 間 洋 一	平安時代を代表する詩人菅原道真の漢詩集『菅家文草』を精読し、その表現の特質について考究する。テキストには版本（元禄十三年版）を用い、巻頭から順次採挙げる（テキストは複写し配布する）。

《備考》

この授業概要は、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、開講科目、担当教員及び授業概要については変更されることがあります。

人間生活学研究科の概要と特色

本研究科は、修士課程と博士後期課程で構成され、修士課程には人間発達学専攻人間発達学コース、人間発達学専攻臨床心理学コース、食品栄養学専攻、人間生活学専攻の3専攻・2コースが置かれている。博士後期課程には人間複合科学専攻1専攻が設置されている。修士課程の各専攻・コースには3～5研究分野が設けられ、博士後期課程の人間複合科学専攻には3研究領域が設けられている(表)。修士課程の研究分野と博士後期課程の研究領域との間には密接な関係があり、人間複合科学専攻の精神機能論領域は人間発達学専攻の両コースの研究分野に、保健栄養論領域は食品栄養学専攻の研究分野に、生活文化論領域は人間生活学専攻の研究分野にほぼ対応するものである。

表 人間生活学研究科の構成

修 士 課 程		博 士 後 期 課 程	
専 攻 ・ コ ー ス	研 究 分 野	専 攻	研 究 領 域
人間発達学専攻 人間発達学コース	発 達 基 礎 論 発 達 支 援 論 専 門 関 連 科 目	人間複合科学専攻	精 神 機 能 論
人間発達学専攻 臨床心理学コース	臨 床 心 理 論 研 究 法 分 野 基 礎 分 野 社 会 分 野 精 神 ・ 身 体 分 野		
食品栄養学専攻	栄 養 管 理 学 栄 養 学 食 品 学		保 健 栄 養 論
人間生活学専攻	人 間 社 会 論 人 生 活 文 化 論 生 活 経 営 論 生 活 環 境 論		生 活 文 化 論

本研究科は、本学の建学の精神、すなわちキリスト教精神とリベラル・アーツ教育の伝統に基礎を置き、人間及び人間生活を精神活動、身体維持活動、文化活動の面からとらえ、実生活に即した研究を行うとともに、修士課程においては高度専門職業人を、博士後期課程においては自立した研究者並びに高度の研究能力をもつ専門的な職業人を養成することを目的としている。

この目的を達成するため、修士課程においては、上記3専攻・2コースのいずれかの研究分野で実務的、基礎的研究活動を行う。ここで学生に要求されるのは、研究活動を通して人間と社会の実態を学び、それぞれの専攻分野における社会的、教育的、文化的等の諸問題を把握し、基礎的問題解決能力を身につけること、換言するならば、リサーチマインドを持つことである。

これに対し、博士後期課程の人間複合科学専攻では、修士課程における実務的・基礎的研究活動を基盤にして、広い視点から社会的ニーズの高い研究を行う。ここでは、修士課程の3専攻・2コースが1専攻に統合されている。これは、人間及び人間生活を、精神機能論領域、保健栄養論領域、生活文化論領域の視点から深く、かつ豊かに追究するためである。

人間複合科学専攻博士後期課程の概要と特色

本専攻は、人間及び人間生活にかかわる諸問題を多角的視座をもちつつ考究し、多様な課題に対処しうる高度な学術研究を行うことを目的とする。そのために本専攻では、精神機能論、保健栄養論、生活文化論の3研究領域を設けて、広く人間の精神的・心理的諸問題、人間とその健康にかかわる諸問題、人間生活の社会的・文化的側面にかかわる諸問題の解決を目指し、必要な授業科目を配置している。各研究領域とそれに連なる授業科目は密接に連携し、それぞれの研究領域や研究領域間における研究課題の開発を行い、学問研究への寄与を目指すとともに、当該領域における高度の専門能力を有した研究者、並びに専門行政官等の高度に専門的な業務に従事しうる人材の養成を目指している。

(1) 人間複合科学専攻のアドミッション・ポリシーと入学前の指導

本専攻では、上の目的を達成するために、精神機能論、保健栄養論、生活文化論にかかわる専門的な知識と研究能力をもつとともに、多様な研究課題に取り組む意欲をもった学生を求める。また、本専攻では、学生に本学の建学の理念であるキリスト教に関する豊かな知識をもつことも求めている。

本専攻での研究を志望する学生は、本専攻への入学前に研究指導を希望する教員と面談して指導を受け、自らの研究課題や達成目標に輪郭を与え、入学後の研究をスムーズに進めるための準備を行わなければならない。

(2) 人間複合科学専攻のカリキュラム・ポリシー

本専攻では、精神機能論領域に8科目、保健栄養論領域に9科目、生活文化論領域に5科目、計22科目の授業科目を配している。各授業科目は、それぞれの専門分野を包括する独立の教育・研究単位であるが、各々の研究領域やそれらを結んだ新たな研究領域の多様な研究課題に、多角的・融合的に対応することを可能にしている。また、キリスト教に関する理解を深めるための授業科目も用意されている。

学生は、精神機能論、保健栄養論、生活文化論のいずれかの領域に研究の主体を置き、研究課題を策定してその課題に関係のある科目12単位以上を、1研究領域につき最低1科目、複数の研究領域から選んで履修する。研究指導には、主たる履修科目の担当教員（正研究指導担当教員）と他の履修科目の担当教員2名（副研究指導担当教員）が当たり、研究の深化と多角的視座の確保を担保している。

(3) 人間複合科学専攻のディプロマ・ポリシー

本専攻では、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ、十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位を得るために、次のような手順を定めている。

中間評価

2年次の第1期に行うもので、研究の意義と目標、現在の達成度と今後の見通し等について審査を行う。学生はこれに合格して、研究を次の段階にすすめることができる。

最終の中間発表

学位論文提出の4カ月前に行う研究発表で、研究内容についての最終的な確認を行うものである。学生はこの場で、研究の達成度について評価を受け、論文提出の準備にとりかかることになる。

学会誌への投稿・掲載

学生は学位論文提出の時点までに、研究内容の一部を査読付きの学会誌に投稿・掲載し、自らの研究

を公にして広く学的評価を受けておかなければならない。

本専攻における学位論文は以上の手順を踏まえるとともに、「学位規則」ならびに「学位論文審査等の判定基準」に示した研究水準を満たすものでなければならない。

人間複合科学専攻博士後期課程カリキュラム一覧表

研究領域	授 業 科 目	単 位	担 当 者	摘 要
精神機能論	環境行動心理論	4	教授 石原金由	(キリスト教思想)
	発達生理心理論	4	教授 稲森義雄	
	心理学研究法論	4	教授 清板芳子	
	臨床心理論	4	教授 平松清志	
	西欧思想論	4	教授 高木孝子	
	生体情報論	4	教授 保江邦夫	
	発達言語文化論	4	教授 脇明修	
	人間性教育論	4	教授 小林修典	
保健栄養論	発達保健論	4	非常勤講師 小田 慈	⑧ ⑧
	予防栄養論	4	非常勤講師 小木 眞順美	
	栄養環境論	4	教授 大西 孝司	
	環境生態栄養論	4	非常勤講師 佐藤 眞一	
	生体機能調節論	4	教授 林 泰資	
	食行動生理論	4	教授 服部 幸雄	
	食品栄養論	4	教授 菊永 茂司	
	調理文化論	4	非常勤講師 今田 節子	
	食品機能論	4	教授 北 嶋直文	
生活文化論	生活経営管理論	4	教授 水谷 節子	※
	家族・社会機能論	4	教授 葛生 栄二郎	
	比較文化論	4		
	民族社会論	4	教授 加藤 正春	
課題研究		4	教授 加藤 正春	
			教授 稲森 義雄	
			教授 大西 孝司	
			教授 菊永 茂司	
			教授 北嶋 直文	
			教授 葛生 栄二郎	
			教授 小林 修典	
			教授 高木 孝子	
			教授 服部 幸雄	
			教授 林 泰資	
			教授 平松 清志	
			教授 水谷 節子	
			教授 保江 邦夫	
			教授 横山 明子	

- (注) 1 このカリキュラムは、平成23年度のものであります。したがって、平成24年度においては、開講科目及び担当教員については変更されることがあります。
- 2 ※は平成23年度開講しない。
- 3 ⑧は集中講義をいう。

授 業 概 要

研究領域	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
精 神 機 能 論 保 健 栄 養 論	環境行動心理論	石 原 金 由	生活を取り巻く時間的、物理的、社会的環境は、ヒトの行動や心理状態を規定する大きな要因である。これらの因果関係を解明するため、精神生理学・生理心理学の観点から考究する。とくに、本授業では子どもの睡眠と健康について考えていく。
	発達生理心理論	稲 森 義 雄	大脳発達の知見と心身発達の関連性を究明する。具体的には学習、情動、ストレスなどの問題を、発達心理学、生理心理学、神経心理学、進化心理学の最新の知見に基づいて、心身相関の観点から考究する。同時にこれらの知識を実証的に研究するための実験計画法を指導し、学位論文につながる教育・指導を行う。
	心理学研究法論	清 板 芳 子	人間の営みや行動は必ず心理的なダイナミズムや精神活動が具現されたものということもできる。諸領域の研究対象の中に存在する心理学的現象を捉え、これを研究デザインの中に組み込む方法について考究する。
	臨床心理論	平 松 清 志	現代社会は、自然科学の発展によって、かつてないほどの進歩を遂げている。しかし、その反面、人間的な触れ合いの機会が少なくなり、人間関係の疎外も言われている。この現状をどのように理解し、どのように対応したらよいのか、臨床心理学の観点から考える。
	西欧思想論 (キリスト教思想)	高 木 孝 子	19世紀の西欧社会は多くの優れた女性思想家を輩出した。そこで本講義では、西欧諸国における女性思想家たちの議論の展開をたどり、キリスト教思想と女性問題について考察していきたい。
	生体情報論	保 江 邦 夫	脳神経系の情報伝達過程については、マイクロメートルのスケールの巨視的現象を記述する統計物理学による生物物理学的研究が進められたため、未だに現象論的な理解しか得られていない。近年、ナノメートルのスケールの微視的現象を記述する量子物理学で生体系の原子分子レベルにおける情報伝達過程を捉える理論研究が生まれ、最新科学理論を複合的に取り入れた脳科学が発展しているが、授業ではその上に複合科学としての脳の理論を構築する。
	発達言語文化論	脇 明 子	子どもの発達にはわらべ歌や物語などの言語文化財が不可欠だが、それらが精神機能の発達にどのように寄与しているのかを明らかにしていくことによって、質のよい言語文化財の選び方や、子どもへの提供の仕方について、理論的な裏付けのある方法論を構築していく。
	人間性教育論	小 林 修 典	人間性の陶冶は一人ひとりの個性・可能性と環境との相互作用と考え、「青少年が家庭、教育機関、社会とどのように関わり合いながら人間形成を行っていくか」というテーマを追求する。
	発達保健論	小 田 慈	少子・高齢化社会における小児保健・福祉、成育医療のあり方について、最新の状況をもとに、様々な視点からとりあげ検討し、あるべき姿について知見を深める。
予防栄養論	木 本 眞 順 美	生命現象あるいはその障害の理解には代謝学の学びが必須となり、その知識は我々が目標とする病気の予防に効果的に働く。本講義においては、代謝学のコア部分を体系的かつ専門的に論述する。同時に、研究史上トピックスとなった研究事例を通して、解説・討論する。	

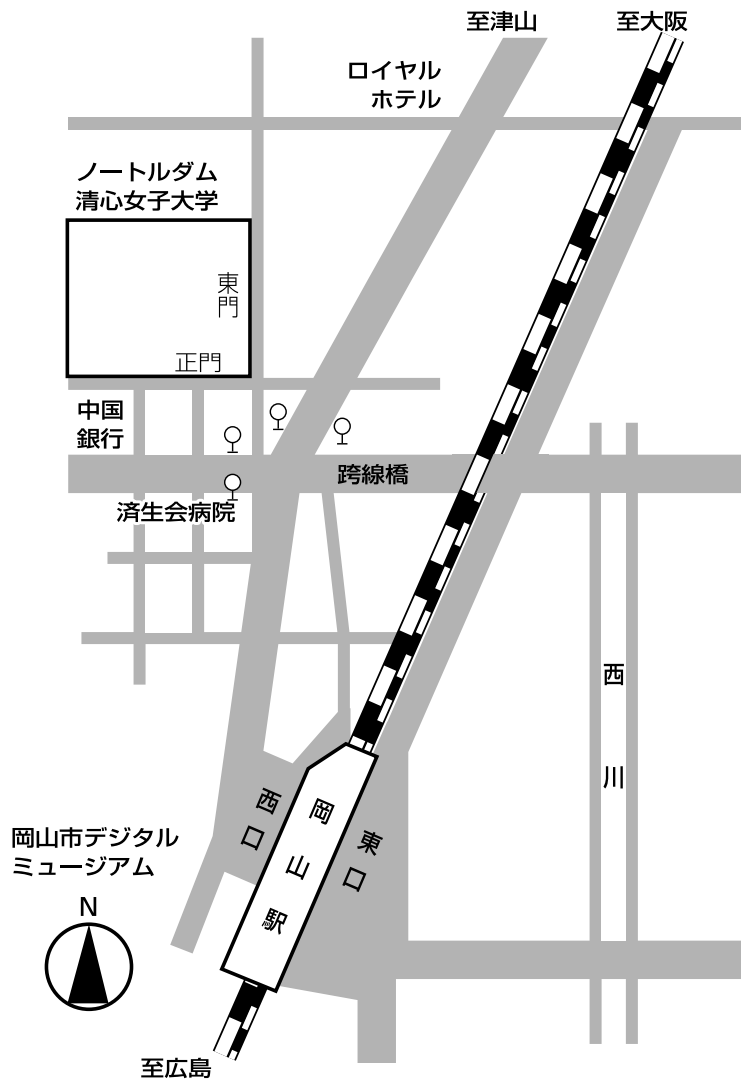
研究領域	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
保 健 栄 養 論	栄養環境論	大 西 孝 司	地球環境は、人間のみならずすべての生物が生活するための基盤である。しかし近年、地球温暖化をはじめとする環境問題は、国際的にも重要課題として認識されてきている。その原因と対応策を身近な生活の中から正しく認識し、環境保全・地域保健・疾病予防等の面から管理栄養士として取り組むべき役割と課題が何かという点を考えていく。
	環境生態栄養論	佐 藤 眞 一	県ないし県下各市町村の各種健康指標、栄養摂取関連指標を、全国ないし他都道府県・市町村との比較の中で把握し、栄養施策立案につなげるための方法を学ぶ。学生の興味により、より深い栄養疫学研究手法への展開や、ヘルスプロモーションへの展開について具体的な方法を学ぶ。
	生体機能調節論	林 泰 資	脳の機能は、受容体やイオンチャンネルなどを介した神経細胞相互の情報伝達とその精密な調節により発揮されており、生体の恒常性維持から学習、記憶、情動などの高次神経機能まで担っている。本講義では、人体を総合的に調節する脳機能のうち、特に高次神経機能に焦点をあてて、神経生理学および神経薬理学的観点から考究する。さらに、食品成分の機能や新しい医薬品の可能性について考える。
	食行動生理論	服 部 幸 雄	食行動にかかわる生理学領域、および保健栄養のみならず精神機能、生活文化などをも含めた関係諸領域における最新の知見について検討し、これらの成果からいくつかの研究課題を設定し考察することによって食行動にかかわる生体の機能原理を見出す。
	食品栄養論	菊 永 茂 司	無機質の栄養状態と関連する疾患の発症過程における、無機質の作用機序に関する最近の研究成果について論じ、その疾病の予防と改善を目指した無機質栄養のあり方を考究する。
	調理文化論	今 田 節 子	伝統食（海藻、魚介類、大豆類）の特徴を自然・人文・社会科学の学際領域からとらえ、日本の調理文化の特徴を明確にし、その変容と背景および実態を総合的に論述する。さらに今日の健康食としての伝統食の意義についても考察を進める。
	食品機能論	北 畠 直 文	食品の機能として、いわゆる栄養機能、物性機能、生体調節機能があげられる。これらの機能について、事例をあげ、歴史的背景も踏まえながら論究する。さらに、食の社会的機能についても、食品科学的観点から考察し、“食”の必然性について論考したい。
生 活 文 化 論	生活経営管理論	水 谷 節 子	人間及び人間生活で遭遇する複合型問題の解決を導き、社会の創造的な形成に寄与するべく、複合科学としての理論及び方法論が求められる。こうした視点に立った生活経営管理論について、本授業では具体的に述べ追究していく。
	家族・社会機能論	葛 生 栄二郎	現代社会の家族問題について、とりわけ法や倫理の観点から考察し、あわせて社会において家族の果たす機能に言及する。家族の多元化、ひいては家族の溶解すら叫ばれる現代社会にあって、家族にいかなる法的・倫理的な位置づけを与えるかは、各人の法意識や倫理観念を強く規定する。カトリック的家族倫理のみならず、現代のリベラルな家族観、コミュニタリアンの家族観などを比較検討して、家族のあり方を考えたい。
	民族社会論	加 藤 正 春	奄美沖縄社会を基軸にすえ、日本および東アジア社会の生活文化を考察する。講義では、当該地域の人々の宗教的世界観の構造的な理解をめざして、葬墓制と霊魂観、神観念等の比較研究を行う。

研究領域	授 業 科 目	担 当 者	授 業 概 要
生 活 文 化 論	地域文化論	横 山 學	情報や交通の発展により地理的な距離は大幅に短縮されたが、文化理解の問題は依然として大きい。他国や他者の文化を理解することは、自分自身の文化理解を深める。時代や空間の異なる地域や人物に焦点を定め、介在する文化観・文化認識・文化理解の方法論と具体事例を学ぶ。たとえば、近世における琉球と日本との文化的相互理解、また、近代における外国人の日本理解などの異文化理解である。具体的には、学生の問題意識を基点とした研究領域と課題に即した形で指導する。他研究領域の方法論を合わせて学ぶことが必要。
	課題研究	各 研 究 指 導 担 当 教 員	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

《備考》

この授業概要は、平成23年度のものです。したがって、平成24年度においては、開講科目、担当教員及び授業概要については変更されることがあります。

大学案内図



- J R / 岡山駅 (西口) から北へ徒歩約 10 分
- バス / 岡電バス (万成, 津高営業所方面行等)
又は中鉄バスのいずれかで、「済生会病院前」下車。

問い合わせ先

ノートルダム清心女子大学 入試広報部

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

TEL 086-255-5585 (直通)
FAX 086-255-4117
E-mail apoffice@pluto.ndsu.ac.jp
URL <http://www.ndsu.ac.jp/>